京城日報
二十四日夕刊（夕刊併せて二頁）

長春不穩と我軍隊

長春不穩の形勢あり日本軍隊出動の準備全く成れり（長春電報）

孟督軍應戰準備

其後の情報に依れば孟吉林督軍は二十二日朝二千名の兵と多數の兵器彈藥を長春に送り若し北京より討伐軍來らば之と應戰して一擧に擊退せんと敦圍き準備を急ぎ居れり我官憲は萬一の變を慮り充分に準備し居れり（奉天特電）

吉林省境防備嚴

孟吉林督軍は長春鎭守使裴其勳氏を獨立軍司令官に任じ省境の防備を嚴にし奉天よりの攻擊に備へたり（奉天特電）

吉林軍物資徵發

長春に集中せる吉林軍は馬車及び物資の徵發を開始したるを以て市場は大恐慌を起し吉林官帖は暴落せり依つて長春城内の支那側各銀行員は孰れも其家族を我長春附屬地へ轉居せしめたり（奉天特電）

孟督軍部下憤慨

孟吉林督軍參謀の談に曰く馮大總統は先日孟督軍更迭の意思無しと言明せるに拘はらず疑政府軍に左遷せり之れ段總理が總統を蔑みにせる命令にして斷じて總統の意に非ず我等は飽く迄此の命令の撤回を要求するものにして敢て獨立を宣言し絕對に中央の命令に反するに非ず云々（奉天特電）

吉林事變形勢未し

目下吉林省には四個混成旅團あるも中高、裴二氏の外は今尚觀望的態度にて殊に郭省長の如きは孟氏の味方に非ざれば妥協は困難形勢逆睹し難し（奉天特電）

我官憲警戒嚴重

這回突發せる吉林事變に對し我官憲は甚大の注意を拂ひ二十二日公主嶺分遣隊長今井大尉は兵士三名を伴ひ情勢偵察中なるが目下長春城内は孟督軍の軍隊集中の爲め人心洶々の有樣にて我官憲は亂徒の我附屬地に亂入するを嚴戒中なり（奉天電特）

周氏大攻擊開始

北方派四川第一師團長周道剛氏は二十二日盧州の雲南軍に向ひ愈大攻擊を開始し各方面にて激戰中なり（北京電報）

討伐命令發表期

南方討伐命令書は既に脫稿し閣議の承認を經居るものゝ如きも其發令は陸榮廷氏をして不法の要求を撤回せしめんとする最後的努力の結果が分明する迄保留さるべしと（北京特電）

獨逸水兵の叛亂

オステンドに於て敗名の獨逸水兵叛亂を起し潛航艇へも乘船を拒絕せり（アムステルダム電報）

樞府定例會議

二十四日は樞密院會議定例日に付各顧問官參院し御諮詢案、朝鮮總督府官制中改正の件、臺灣總督府官制中改正の件、小額紙幣（兌換券）發行に關する緊急勅令案に就き審議可決せり（東京特電）

小泉中將薨去

危篤を傳へられたる豫備陸軍中將小泉正保氏は二十三日正午水戶市に於て逝去せり（東京特電）

附記 中將は茨城縣士族小泉正誠氏の長男にして安政二年二月十三日を以て生る明治七年兵學寮に入り同十年西南役に從軍し次で陸軍少尉に任じ爾來累進して同四十三年八月陸軍中將に陞任し第十師團長に補せられ後第八師團に轉じ大正元年より朝鮮駐箚軍として龍山にあり大正三年春歸還八月豫備役仰付らる其間滿國公使館附屯田兵副官第五師團參謀、步兵第二十四旅團長豫備第一守備隊司令官等に歷補せらる日淸役には第一軍に從ひ日露役には步兵第●十四旅團長として沙河會戰に負傷し遼陽の戰鬪に再び負傷す勳功を以て勳一等功二級に敍せられたり氏は人となり剛直、又其の趣味嗜好は廣汎にして和歌の如き頗る堪能のものなりき

救恤下賜金配頒

本年七八月中に於ける鮮内の豪雨に因る被害は當時本紙所報の通りなるが總督府に於ては被害の程度を精査の結果死亡及び行衞不明者一人に付き金三圓、負傷者一圓五十錢、住家流失一圓十錢全潰七十錢、半潰四十錢の標準にて左記被害各道に對し頭書の如く夫れ〳〵配布したり

一金九十五圓也　京畿道
一金一百四十一圓也　忠淸北道
一金一百四十五圓也　忠淸南道
一金八百圓也　全羅北道
一金三十一圓也　全羅南道
一金一百二十一圓也　慶尙南道
一金七百九十圓也　慶尙南道
一金四十四圓也　黃海道
一金三十圓也　江原道

片山顧問官逝去

宮中顧問官工學博士前内匠頭片山東熊氏は二十三日午後七時薨去せり危篤の趣天聽に達するや特旨を以て正三位に陞敍されたり（東京特電）

總裁督軍招待

石塚東拓總裁は二十四日夜城内滿鐵公館に於て張督軍を招待し二十五日松鄕軒にて支那側實業家を招待すべし（奉天特電）

小田切氏東上

正金銀行支那總支配人小田切滿壽之助氏は二十三日夜北京より奉天を經由し二十四日四平街觀察の上安奉線にて東上の豫定なり（奉天特電）

政務總監臨式

山縣政務總監は赤十字社朝鮮本部總長の資格を以て二十五日午前九時赤十字社朝鮮本部に舉行す可き御眞影拜戴式に臨場の事となれるが當日は其の他同社各役員、有功特別社員並に本部看護婦生徒等も參列の筈なり

京管改制に就て

久保京管局長談

滿鐵京城管理局の課制度改正に就き久保局長は曰く今回改正の要旨は事務の

▲簡捷と統一 を企圖せしに外ならず乃ち從來分立せし營業課と汽車課の主要事務たる運輸の如きは共に列車運行に關する直接事務に付之を併合して運輸課なる一課に總ぬるは執務上の便宜少からず又工務課と建設課の如き其の所管事務も工務課に於て既設線の改良維持、建設課に於て新線の建設にありしも其間に共通のもの多く又統一執務上の利益少からずと思はれ工務課に合同し又汽車課の

▲工作係と工場 の如きも密接離る可らざるものにして其の合致を圖りしは當然なり而して如斯統一的の組織は鐵道經營上の大勢と云ふべく鐵道院の組織の如き槪ね今回改正せし京管局分課制に類似し居れり尤も

▲滿鐵本社 は特殊事情ありて其の制度之等の範疇を出で居れど何れ早晩改正の時期來べしと信ず

醫師試驗改則

大正三年總督府令第百十四號醫師試驗規則改正の件は二十五日の官報を以て公布大正七年一月一日より施行の事となれり右は現行同規則中第三、四、五、六、七條中及び第一號第三號書式を改正するものなり

本年度收稅額

大正六年度租稅並に驛屯賭の八月末日現計收入額及び其收入狀況を聞くに左の如し

▲地稅 調定額二萬二千五百六圓に對する收入濟額一萬三千三百五十五圓にして尙ほ九千九十餘圓の未收あり其の收入步合五割九分三厘なりとす

▲市街地稅 調定額十八萬六百十八圓の中十七萬九千二百六十二圓の收入濟額あり未收は六百三十圓にして其の收入步合九割九分二厘を示せり

▲戶稅 調査額六十六萬一千八百五十六圓に對し四十萬七千五百三十四圓の收入濟額あり未收は二十五萬四千三百餘圓にして其の收入步合六割一分五厘なりとす

▲家屋稅 調定額八萬八千四百四十三圓中八萬五千七百五十一圓の收入濟あり未收額二千六百九十餘圓にして其の收入步合九割六分九厘なりとす

▲酒稅 調定額四十三萬四百九圓に對する收入濟額四十二萬五千六百三十七圓にして四千三百餘圓の未收あり其の收入步合九割八分八厘なりとす

▲煙草稅 二十七萬六千四百三圓の調定額に對し二十六萬七千八百十一圓の收入濟額あり未收は八千五百餘圓にして其の收入步合九割六分八厘なりとす

▲鑛稅 七萬三千五百十四圓の調定額に對し五萬五千二百四圓の收入濟額あり未收一萬七千九百餘圓にして其の收入步合七割五分なり

▲雜稅 二萬四千八百十三圓の調定額に對し二萬百六圓の收入濟額あり未收四千四百餘圓にして其の收入步合八割一分なりとす

▲合計 前記諸租稅を合計するに調定額百八十八萬一千四百四圓にして其の中收入濟額百五十七萬六千七百十一圓、未收入額三十萬二千八百十五圓にして收入步合八割三分八厘に當れり

▲驛屯賭 調査額二萬三千百五十七圓にして七千百五十四圓の收入濟額あり未收入額一萬五千七百四圓を數へ收入步合三割八分に止まれり

會社組合 設立許可

左の二會社及び一組合は二十三日附を以て何れも總督府より許可せられたり

▲高瀨合名會社 高瀨政太郎、福永政治郎、高瀨谷次郎、高瀨平治郎四氏の申請に係る高瀨合名會社は二十三日附を以て許可の指令あり同社は本店を釜山に支店を京城、群山、木浦、平壤、元山、大邱並に全羅南道麗水郡麗水面に設置し資本金一百萬圓を以て綿絲布帛諸雜貨の販賣及び土地の經營を爲すものなり

▲果物同業組合 倉島要平、歌原恆、三輪如鐵、田中長三郎、長永福藏、大賀喜三郎、黑川國治、坂本與十郎、中原房一、松原米吉、山形定右衞門、池田政討諸氏の申請に係る慶北果物同業組合は二十二日附を以て認可の指令あり、同組合は慶尙北道大邱府、達城郡、慶山郡、淸道郡、漆谷郡、金泉郡及び善山郡を其の區域内とし販賣の目的を以てする果物の生産及び道外搬出を事業の目的となすものなり

▲稷山金鑛會社 稷山金鑛が在來の組織を變更し日本の法律に依り株式會社を設立す可く當局に許可の申請を爲せしは當時本紙所報の通りなりしが同會社は二十一日附許可の指令あり申請人は澁澤榮一、淺野總一郎、佐々木勇之助、大倉喜八郎、前川益興、日比谷平左衞門、近藤廉平、大倉粂馬、セー、アー、バ、グリー。エー、エバンス。ヒー、バルナス。ダブルユー、ケー、フレザイズ。エフ、バ、ヘンリー。グリムシー、諸氏にして資本金は在來の如く二百萬圓、鑛石の採掘を目的とし本店を忠淸南道天安郡に、支店を橫濱市に設置す

黑鉛鑛出願減

九月中に於ける新規鑛業出願件數は五百十四件にして同月中の許可件數九十二件なりしが許可鑛種中最も多きは黑鉛の二十三件にて金鑛の二十件鐵鑛の九件等相次ぎ而して前記出願件數を前月の六百六十件に比すれば百四十六件の減少を見たるが要するに一時平安北道に於て續出せし黑鉛鑛業の出願頓に減退したるに由る

鐵道幹部の異動

▲久保理事が京管局長として就任すると同時に新鮮鐵の勅任連は本社勤務となり相前後して赴任する、跡は如何に組織變更されるかと一般に期待されてゐたが、二十三日分課制の改正發表あり、同時に主要局員の異動となつた

▲前週の土曜、久保理事を始め新任の課長連は局長室に鳩首凝議し日が暮れても止めなかつた、果然二十三日に其結果が發表された蓋し土曜の幹部會議は新制度を久保局長より課長連に内示したものと察せらるる

▲新制度を見ると瀧尾氏の課長たる庶務課は「務課の總名同體に過ぎない、加藤氏の經理課長も以前と同名同體で、而して其の權限も同じである

▲以前より膨脹したのは安藤氏の運輸課、川江氏の工務課である、安藤氏の課長たりし營業課は鐵道の主眼であつた、而して最近まで三本理事が課長をしてゐた、然るに今回其の營業課に新汽車課の生命たる運轉係を加へられた、永らく三本氏の下に一主任たりし安藤氏は、追次拔出されて此の重要の位置を占むるに至つた

▲新工務課長の川江秀雄氏は技師として現任者の最高級である、氏は故岡村工務課長存逝の時にも工務課長の有力な候補者であつた、今回は二勅任官が各々課長たりし大課の課長として元山より還顧する事となり、安藤氏と共に重要な位置に据ゑられた

▲工務課長から元山建設事務所長に行く伊藤三郎氏は人物がよく部下に惜まれてゐる、然し氏も新工務課長を其の先任者に讓るのだから止むを得まい、又江戶つ兒で氣持の好い佐藤汽車課長も運輸課の一運轉係主任になつたが、氏の管掌事務は從來と何等變りもない

▲工場長の黑澤明九郎氏も權限が太つてお目出度い方である、大田建設事務所長から淸津に行く久門雄二氏はこれから新線の建設に大に手腕が振へる譯だ（一記者）

京管局の協議

滿鐵京城管理局にては二十四日午前十時より鐵道倶樂部に京釜線大田以北京仁線京義線物開以南各驛長並に保線長總員七十餘名を召集し運輸事務に關する協議會を開きしが管理局よりは久保局長、安藤運輸加藤經理各課長外主要局員出席久保局長より一場の訓示をなしたり

獨軍ウ半島占領

露國公報に曰く獨軍は驅逐艦をして砲擊を行はしめし後ウエルデル半島に上陸し我前進部隊を驅逐し半島全部を占領せり（倫敦電報）

露海軍根據轉移

露國海軍公報に曰く十九日モーン瀨戶に於ける我海軍根據地は軍艦、引船運送船の大部分と共に芬蘭灣口の安全なる地點にて敵の必死的抵抗を排し秩序整然として轉移せられたり（倫敦電報）

獨軍の謀叛運動

捕虜獨兵の言に依れば獨軍内に冬營の苦痛を思ふて謀叛運動起り關係者は嚴罰に處せられたり（倫敦電報）

英軍敵線へ猛擊

英軍は敵戰線に對し間斷無く猛烈なる砲火を注ぎつゝあり其結果敵は兵の交代補充を行ふ能はざるより戰線を維持する能はざる場合に立至りつゝあり敵兵の書狀の英軍の手に入りたるものに記せる處に依れば英軍は四日間に獨軍步兵二個師團を擊破せりとあり又廿三日の一日間に獨軍步兵二個中隊全滅せしめられ又二週間前に閱兵せるときは百四十個中隊現存し其後十八個中隊を補充せるに今や其部隊は一聯隊を廢すに過ぎずとあり（倫敦電報）

●林獸醫部長北巡 駐箚軍林獸醫部長は二十六日出發十一月十三日歸任の豫定にて北鮮の初度巡視を行ふ

人事

▲前田高等警察課長（安東新義州管内巡視の爲め出張中の處廿六日歸任の筈）
▲飯塚徹氏（醫學博士）二十四日夜退京の筈
▲右ゝ義治郎氏（滿洲兵大尉）二十三日夜全州より歸京
▲藤川虎之助氏（東亞煙草會社專務取締役）二十四日夜入京朝鮮ホテルへ投宿の筈
▲高橋代議士 廿三日朝内地より安東へ通過
▲瀨目泰市氏（日本全商會社員）二十三日夜入京大和旅館へ
▲三橋信一氏（三菱社員）同上巴城館へ
▲陣軍吉氏（宮崎選出代議士）二十四日朝入京京通用へ
▲野田寬治氏（大倉組重役）二十四日朝入京天眞樓へ
▲神林啓太郎氏（成興炭鑛社長）二十四日朝成興へ
▲稻垣基氏（滿鐵本社詰）二十四日午前九時十分南大門驛發列車にて赴任す
▲佐賀縣商業學校觀察團 二十四名 二十四日朝入京旭金旅館に投宿

彼れ此れ

○露紙は『吾人は暴徒、奪掠、同盟罷業等の仕事に、忙殺されつゝある間に、獨逸は自己の仕事に忙殺され、今やリガ灣の主人たるに至れり』と嘆ず。露にして鬪志なくんば、獨逸は遂に、露國の主人たるべし。カイゼルの抱ける覇圖は、今やスラヴと、ゼルマンとを合したる、大帝國を夢むと知らずや。而も徒らに噴聲を發するを休めよ。

○露都莫府に移轉に決すと。クレムリン宮殿は、昔ながらに輪奐の美を誇るも、今は秋風蕭殺たるのみ。○五萬九千貫の巨鐘と、一千貫の巨砲とは、雄姿堂々たるも、之れ亦徒に、大露國の誇りを示すのみ。

○三百年來、長夜の眠に耽りつゝある、巨鐘を撞いて、全露國民を覺醒せしめよ。三百年來、沈默を續けつゝある、巨砲を放つて、敵軍を擊攘せよ。古都の歷史は、士氣頹廢せる露軍を、奮起せしむるに足るべし。茲に於てか始めて露國の面目あらむ。

○金風颯々、衣袂冷にして、秋菊妍を競ふ。將に一年の好季節。大に遊べ、往け野に、登れ山に。

日光より

十月十九日　李光洙

拜啓本日當地へ參り候、紅葉は今が盛りにて、げに美しくも美しきものに候、左の三十一文字御一覽に供し申候

みもゝとせ榮わし德川も時の流に是がかたみか

司令官春川行

司令官松川敏胤中將は山本高級參謀野津副官を隨へ二十七日江原道春川に赴き同地守備隊の視察をなし二十八日歸任の豫定なり

小林財務官來京

支那駐在財務官法學博士小林丑三郎氏は大藏事務官松岡由三郎外二氏と共に北京に赴任の途二十五日午後九時南大門驛着列車にて入京の旨或る筋へ通知ありたり

鐵道四勅任廢官 滿鐵

滿鐵の勅任官たる橫井實郎、三本武重の兩氏は嚢に滿鐵本社轉任と共に廢官となりしが更に十三日附勅任技師に陞敍されし稻垣基氏は二十二日附京城管理局兼務を解かれ滿鐵本社詰專任となりしに付同じく廢官となり又建設課長たりし勅任技師小城齊氏は二十二日附滿鐵本社總務部勤務となりしを以て同じく鮮鐵を離れしため廢官となり以上を以て鮮鐵勅任は全部退官したり

建部博士歸東

入京中なりし建部文學博士は二十四日午前八時三十分發列車にて歸東せり

佐藤軍醫部長西行

駐箚軍軍醫部長佐藤恒丸博士は有動一等軍醫磯部藥劑官を隨へ二十六日出發軍隊衞生狀況事務查閱の爲め平壤地方に出張する由

小平運輸課長神戶

入京中なりし小平鐵道院西部管理局運輸課長は二十四日午前八時三十分南大門發列車にて出發歸神せり

大連支局移轉

本社大連支局は丹後町假事務所より左記へ移轉仕候間此段社告候也

大連寺岐町〔區〕三十一番地

十月廿三日　京城日報社

廣告

入札拂下

一、口徑拾六吋水道管其他約壹萬參千參百七拾五貫
右來ル拾壹月拾五日競爭入札ニ付シ賣却ス詳細ハ當府ニ就キ承合ハルヘシ
大正六年拾月貳拾參日　釜山府

露國は滅亡するや否々
大露國は滅亡せず!! 露國公債は……
（備考）……
今戶

鳥獸剝製用眼釦卸小賣
東京市神田區五軒町一番地
米山商店

大賣出し
十月廿五日より廿九日迄五日間
正札より一割引
マダ〳〵安い物は
一、本場名仙 一反 金六圓八十錢均一
一、ニコ〳〵絣 一反 金一圓五十錢均一
一、色モス大巾 一尺 三十一錢
龍山元町
植西呉服店

●愛が觀物の大芝居

獨立の旗を擧げた吉林孟督軍

張督軍と鮑督軍は どんな態度を執るか

▽雨か風か

吉林の孟督軍は廿二日獨立の旗を擧げ麾下の精兵五百長春に急行す……とおいでなさつた、北の密雲はいよ〳〵垂れてポツリ〳〵と大粒なのが來さう、但しグロリと襲れるかも知れぬ、多年白山黑水の間にその勢力を養ひ來つた孟督軍がとんだ躍もなく

■北京政府から■

■馘首せられて■

い本ならばさしづめ元帥府とも云ふべき鎭威將軍の空名の下に祭り込まれ、素手で北京に呼び出されたのが這回の謀叛の導火線、但し馘首の遠因は復辟の復辟當時に兆してゐることは勿論である支那側の人々に訊くと這回の陰謀は吉林孟督軍の意思に非ず、それは主として吉林督軍の參謀長高士儐氏の大不平に勃發したのだといふ、高參謀長は孟督軍の愛婿で死んだ任厮九の跡を襲て目下長春の旅長である、既に獨立の旗幟を飜へす以上府の討伐軍と

■砲火相見ゆる■

■は覺悟の前で■

なければならぬ、高參謀長が吉林省城をおいて長春に據るとすれば日本の附屬地を背負うて立つに便利もあらうし且又省城で兵をあぐるに多少困難な點もあると見られる次に孟督軍に替るべき田中玉氏はどんな人か、彼れは今迄察哈爾都統として曾ては段總理の下に陸軍次長の要職に在つた男、曾て徐世昌氏の鎭安上將軍時代には奉天に居たこともあつた、それに元々武人育ちの前總統袁世凱の乾兒である然らば這度の獨立に對して奉天張督軍と黑龍省の鮑督軍がどんな態度を執るかは頗る面白い問題であるが

■二人は以前か■

■ら洵に近しい■

親戚であつて兩者共現に二三日前も張氏の愛嬢は鮑氏の嗣子に嫁した、而も支那で最も親しい間柄とせる許嫁の間柄である、然るに此の二人と吉林督軍とは平素快からぬ感情があつて互にいがみ合つて居るそれに日頭東三省を獨りで切つて廻さうとする張作霖氏にとつては孟氏の北服行きは眞に眼の上の瘤を取り除けるやうなものであらう元々吉林の孟督軍と奉天の張督軍とは頗る仲が惡かつた、その經歷から見ても二人はかなり段違ひで孟督軍の方がずつと上手でなければならぬ、孟督軍は曾て袁世凱の乾兒として且つまた六十歲近い今日まで武人として立つた男である

■日淸戰役には■

■勇戰して指を■

失うたこともあり、それに却々老猾な性質で吉林省には永らく居つた然るに一方の張雨亭將軍と來ては昔しが昔し、それが近來頗る風向きがよくなつて後の鳥が先きになつた次第、孟督軍たる者心中甚だ平かなるべけんや、二人の快からぬは蓋し無理からぬことである試みに東三省の昔しを見ると奉天に一人の鎭安上將軍なるものがあつて吉林省の鎭安左將軍、黑龍江省の鎭安右將軍を統べ

■東三省兵馬の■

■權を掌握して■

居たものであつた、然し張作霖督軍の代となつてからは古參の吉林孟督軍との均衡上、鎭安上將軍の威力は取消しとなつた、雨亭將軍にとつては「昔しを今となすよしもがな」と食指大に動いたが强いて左右すれば吉林督軍が默つては居ない、それやこれやで今日までズル〳〵延びて來たのであつた、それに這回孟氏に替るべき田氏と張氏とは據て親しい間柄、新參者であつて見れば、兎に角、張氏の頤使に甘んずるかも知れぬ、雨亭將軍にとつては

■和衷協同の實■

■を擧ぐべく眞■

に此の方が誂へ向きといふべきであらう形勢既に如上の有樣にあれば北京の段總理は爰に斷乎として孟將軍を踏み付けた、現下南方に事多き際政府側のかゝる思ひ切つた斷行には既に充分の成算もあらう、しかし吉林側にとつても若へのあると、さてこそ遙かに北の方から南方に手を差しのべて乾坤一擲丁か半かを試みんとするのである、駿を擧げて既にルビコンを渡る孟督軍たるもの一敗地にまみれてやむか、强くなつて例の妥協か茲二三日間が觀物である(二十二日夜奉天支局)

●戰爭の生んだ大悲劇

▽餓鬼道に陷つた獨逸の國民

瑞典から諸威を經て英國倫敦に入ると流石に戰爭の慘禍は目も當てられず街を歩いても壯者青年の影は無く只見る者はひよろ〳〵した病弱者か女か小兒で

▽■華やかな都■も憂愁と苦悶の雲に閉されて見る眼も痛ましい程であつた倫敦の大學へ行つて參觀したが醫學は獨逸の勢力が侵入して居た丈けに戰爭以來藥品も機械も總ての者が窮乏して研究も出來なければ學校の經營も出來ない殊に學生は全部戰線に出動して居る爲め各教室は空虛として今や全く學術の研究も進歩も

▽■總てを犧牲■にして兵馬倥偬の裡に沒頭して居る樣は悲慘にも悲痛にも感せられるのであつた、倫敦の滯在は數日で打切り佛蘭西に入ると山川草木悉く生色無く生靈塗炭の苦みを受けて居る樣が車窓からでさへも窺く親はれた瑞西に入ると此の國は中立國とは言ひ定國民は獨佛伊墺等の人種が混濟し言語は錯雜し政治上

▽■統一は困難■であるが、ベーゼル方面は獨逸を境を接して居る關係上親獨的傾向が濃厚であるから何かにつけて英佛伊等の諸國が壓迫を加へて食糧の輸入は勿論諸物價の入國を禁止して居る其結果物資の缺乏は極點に達して國民の營養問題さへ起つて居るが四面封鎖の獨逸は更に極端で時々刻々に傳へらる

▽■獨逸の內情■は阿鼻叫喚とでも言はうか餓鬼道とでも言はうか實に慘憺たる者で夫の更に遭ひ我子の戰死の報に接した者は戰爭を呪ひ飢ゑた者の路傍に彷徨する樣は、戰爭の裏面に現はるゝ悲劇の斷片であるが今では其の悲劇の底に潛み流れて漸く人類問題として人心に大なる恐怖と驚愕とを惹起せしめて居るのは實に國民の營養問題と人類の退化問題とである或る政治家が此の

▽■戰爭の慘■禍を觀て斯く迄に無辜の人民を苦しめて戰爭を繼續せねばならぬと言ふ理由は何處にあるであらうかと叫んださうだが實に此一語は幾億の生靈の言はんとする處を言ひ得た言葉で實際に歐洲の地を踏んで彼地の状況を視察した者は如何に心無き人も必ず戰爭の目的と國民の幸福に就て一種の深刻なる矛盾と不道理を痛切に感得せざるを得まい然り

▽■戰爭の目的■の遂行に依つて國民に如何なる幸福を齎らすかを今日に於て豫言する事を得ないが今日の如き狀態にして猶繼續せんか人類の幸福は根柢から覆されて了ふのは明かな事實である人類の大部分は今や生存に必要な營養を攝取する事が出來なくなつたさうして青年壯者は悉く亡びる其結果國民の元氣は廢り道德は衰へ且つ不健全なる老衰者脆弱者から生れた多くの國民が果して健全なる國家を建設し得るや否やは頗る疑問で人種改良は實に世界問題として識者經世家の頭腦を惱ますに至るであらう(有馬醫學博士談)

●鹿島丸敵艦を擊破す

危難を遁れてケープタウンに安著

日本郵船會社の歐洲航路船鹿島丸は二十日ケープタウンに入港せるが二十二日同地發二十三日郵船會社に着電左の如し(東京特電)

本船は英國を發しケープタウンに向け航行中九月二十七日午前九時ランズエンド(英國南端の岬)の西微北九十浬の地點に於て左舷船首の間近く敵潛航艇を發見し極めて危急に瀕したるも本船は發砲すると同時に船を旋回し辛じて危難を免るゝを得たり敵は魚形水雷を發射したるも幸に命中せず本船の發せる十六發の砲彈は正しく敵艇の潛望鏡を擊破したり斯くて本船は危地を脫し續航中同日午後二時ランズエンドの西方約百十浬の地點に於て又復敵艇二隻出現し前後より本船を夾擊し再び危殆正に一髮の間を逃れ乘客船員一同無事本日ケープタウンに安著せり

●河馬のお産

是で二度目

昌慶苑の河馬が此の十月一日に御産をしたと聞いたから、早速寫眞班が驅付けて撮影したのが此寫眞である、而して此寫眞は普通の樣に鐵柵の外から撮らず或る方法で檻の中で撮つたのである事は御承知願ひたい、河馬の御話に就き下郡山動物園主任は左の如く語つた。

此處の河馬の御產は今度で二度目である、親は牝牡とも今より五年前、各三歲の交みを獨逸から輸入したもので

▲親は亞弗利加ニール河の產である。一昨年一兒(牝)を分娩して御覽の通り牡の親と共に向つて左の檻に飼育してあるのが夫れである。今度產れたのは第二回の交尾で而かも一晩の交尾で受胎したものである。河馬は中々行儀の好いもので受胎すれば必ず牝の方から廢めて了つて其後は毫も交尾しない。尤も初產の時には秋から翌年の二月半迄交尾したが是は

▲牝牡共に年齡が足りなかつた爲いであらう、今度第二回目の時は只の一回(二月十三日の夜)で廢めて了つた。そうして前回の時も今度も受胎してから七個月半で生れ落ちたのである。哺乳季は一昨年產れた三歲の兒に親が未だ乳を呑ませようとする傾きがあつたが、今度又た子供が產れたので牝牡檻を別にし今年三歲になる初產の子供は牡の親の方に引離した譯である此の獸は非常に

▲力が强くて臆病であるから飼育人も取扱ふのに中々手に負へないので困つてゐるが、嘱託には好く馴れてゐる。

子を產んだ河馬

●工科大學副手

赤城山中で劇藥自殺

京都市今出川櫻木町栗原眞藏氏(二八)は京都工科大學の副手にて今月六日より群馬縣赤城山に登山し山頂の旅館日野屋方に止宿し居りしが二十一日夕刻外出せるまゝ歸宿せず二十三日朝七時大沼湖畔にてモルヒネを服し自殺を遂げ居たるを發見されたり同人は腦を痛め居りたれば急に變調を來して此擧に出でたるものならんと(東京特電)

●電車人を轢く

二十三日夜午後八時三十分元町電車二號は運轉手北勇(二五)及び車掌鮮人乘車北行中釜山鎭停留所附近にて佐川洞一八勞働者文銃(四三)が線路を歩み來りたるを付かず轢殺したるより急報に接したる釜山警察署は警官及び醫師を同所に急行せしめ警戒を加へ檢屍を遂げ屍體は遺族に引渡し運轉手は警察に引致取調中なり(釜山特電)

●青島の釋宗演老師

釋宗演老師は十三日青島著同日午後二時より偕行社に於て軍人官吏の爲め講演、同夜司令官邸の晩餐會に請せられ十四日は妙心寺出張所に立寄り秋山民政長官の案內にて九水の幽鄉を探り同夜は三井の招待會あり十五日は忠魂碑に參拜し戰跡を吊ひ晝は三井物產出張所の招待會に夜は各宗協會主催の講演會に出席十六日午前八時秋山民政長官及び門弟小泉六一大佐の案內にて濟南を經て泰山に向へり(青島通信)

●辯論は二十五日

十九日附本紙夕刊所報の鑛業權二十萬圓損害賠償訴訟と題する記事の訴訟事件は廿五日續行辯論ある筈なるが同事中原告の名に西川清次とありしは西川清次のみの誤りにて佐川源次とありしは佐川は被告なり又た被告側の辯護士に武智正方とありしは弘方の誤植なり

●開校式と菊花

東大門公立小學校開校式は過般來當局にて協議中の所未だ確定には至らざるも十一月三日同校にて擧行さるゝ事となるべく而して同校の開校を祝賀する意味を以て菊花を陳列し一般の觀賞に供すると共に之が品評會を開催すべき計畫ありと

白龍冠 (橘破翁氏栽培)

何んな菊が好いか(上)

橘破翁氏談

追々菊の季節となりました、本年は氣候の加減で[illegible]向は出來が良くなかつた[illegible]私方のは早く[illegible]年中出來[illegible]充分でなし且つ毎々開花時の[illegible]れも[illegible]上[illegible]ならぬので[illegible]理想的の栽培が出來ません、滿開期は十一月十日後かとも思はれます、私の菊は約四百種計りあつたが大部分は[illegible]目下百三四十種となり毎年二三十種宛新種代りで三年目には殆ど入替して新花を入れて居ります、そして菊の性質上如何な年でも十一月三日には咲き揃ひません、何故と申しますれば種類が異な物は別として他は全部萬々重の大重物斗りであるが爲めです。普通の千重咲物は[illegible]の開花迄に二十日間を要するとすれば萬重は三十日以上を要するその代り

■開花して後の壽命が非常に長く且つ花が決して崩れませぬ、花の善惡、種類の良否の鑑定法については私の存して居る丈を申しましよう。流行さいふのは妙なもので例のダリヤの如きも年々新花が出來て花型が變つて行きますが菊に於ても同樣で年々段々此流行の花型が變遷して行く傾向があります

■千重の菊は從來多く奥州八戶を本場として東京以北に流行して居る樣であるが九州方面も稍々同樣の花型が多い樣に見受けられる、例せば昔京城にあつた三吉野とか、花の帝さか、永樂の園さかいふのは咲かけには誠に立派であるが滿花時に近つくに從つて

■花形が崩れて花瓣が亂れ不規律極まるものさ化して大きな胸をニユツと出して來る、こーなつては到底見られた圖ではありませぬ、こーした花型は東に御覽の少ない千重咲に多く吾々の目からは流行後れの菊として如何に美事なものでも顧みられないであります、然らば如何なる花型が良種されて居るかさ申せば

■萬重 乃至萬々重の重ねの厚い走り物は大走りで滿開となるに從つて花型が盛顏さ抱への規律を保ち花瓣を以つて小さな胸を包むさいふ風な花型を賞美するのです、蕊も中芯のない總が全部花瓣さ化して仕舞ふ花があれば種類から見れば下等品として取扱はれて居ります尤も此種の菊でも花瓣の數[illegible]

■規律など[illegible]に於いても中分かたいものがあります例へば例の昔からある白妙今前曲は先[illegible]月桂冠とか申す)の樣な花ですがあれでも矢張り昔の要作を(埓ら語)具備して居らぬ爲めに[illegible]いふ花は甲合者おさしには[illegible]ない好菊家仲間に排斥され目錄の上でも中以上にされてあつた樣に記して居ります

髮を黑く長くつやを出し ふけを防ぎ髮あかつかざる事妙なり

讀者文藝

(一等に五十錢 其他薄謝を呈す)

▼一口噺『此時々の事』

〇甲『大谷光瑞師の還俗問題はどうしたのだらう』乙『まるく納まればよいが』(一等) 龍山 大石 劍牛

△甲『米屋が値上げしたが僕だけは負けてくれた』乙『道理で米に四五本毛が殘つてゐる』 仁川 松 洞

△甲『犬の相撲の番板に武士道鼓吹さあるが可笑しいね』乙『猛犬(万歲)が盛んになつて大武士が深山猫出する』 京城 明一

△甲『獨逸公園を荒した豹が遂に殺された』與太『それで安心したもう朝鮮へ來る心配は無い』 義州 松 月

商況

債券現物特電

(廿四日仁川米取引所着)

甲號五分利公債	六八〇〇
京城電氣	一三七〇〇
朝鮮銀行	一三一〇〇
南滿鐵道	[illegible]

東京公債直取引

(二十四日仁川米取引所着)

五分利公債	[illegible]
四分利公債	[illegible]
甲號五分	[illegible]

深川正米特電

(二十四日現在)

八地米	九六、三〇
肥後米	[illegible]
加賀米	[illegible]

東京期米特電

十二月限	一四二、六〇
一月限	三九、二五、九〇
二月限	[illegible]

大阪株式特電

(二十四日前場)

十二月限	三一、八〇
二月限	三〇、四五

銘柄	拂込額	二十三日	前場
大阪電燈	五〇〇〇	[illegible]	[illegible]
東洋紡績	五〇〇〇	[illegible]	[illegible]
鐘淵紡績	五〇〇〇	[illegible]	[illegible]
大阪商船	五〇〇〇	[illegible]	[illegible]
日本郵船	五〇〇〇	[illegible]	[illegible]
東京株式	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京新株	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪株式	[illegible]	[illegible]	[illegible]

大阪三品特電

(二十四日前場)

十一月限	[illegible]
十二月限	[illegible]
一月限	[illegible]
二月限	[illegible]
三月限	[illegible]

大阪期米特電

十一月限	三一、二五
十二月限	三一、三〇

下關期米特電

(二十四日前場)

	當限	中限	先限
寄付	[illegible]	[illegible]	[illegible]
前引	[illegible]	[illegible]	[illegible]

雜報

●綿糸布不勢

大阪三品は不勢の儘漸く上げ止り模樣にて今前曲は先[illegible]綿布は二十九圓さ小[illegible]

綿布は三錢先物八圓丁度安

[illegible]

●株式更に氣崩

諸株は前後の反撥も一時的の呼吸なりせたる迄にて大勢は依然不良たるを免かれず[illegible]

●正米軟弱持合

過般來の下落傾きにて當地は目下中白も攻つて精白原料に當つる[illegible]

減少の傾きあり廻米も從つて

[illegible]

●五倍子思惑

[illegible]

易き成行きなり

●精米筋原料買控

[illegible]

例年になき不良の作

[illegible]

三十三圓內外

[illegible]

●牛皮は頭打

[illegible]

地輸入行はる弗々支那皮の內

[illegible]

一般頭打

[illegible]

落の見込み 眼先多少下

[illegible]

●肥料は區々

[illegible]

市況は區々 軟化 大豆粕

[illegible]

硫安 硝石

[illegible]

●精米次第安 一二十三圓七十錢 更に十錢安

[illegible]

南大門の廻漕

[illegible]

各地商況

〇群山穀物(二十四日)

[illegible]

●大邱穀物(二十二日)

[illegible]

釜山穀物(廿三日)

[illegible]

釜山水產市場(廿三日)

[illegible]

仁川期米

▲廿四日前場(軟弱)

大阪天候 小雨 前寄二十三圓〇四錢と昨止より入電

大阪三節二圓八十九錢と暴落 大阪六節更に八十五錢と軟弱 保合の裡に下落

[illegible]

市場雜觀

[illegible]

物多く目先小掬び買

[illegible]

仁川米豆取引所

廿四日の十一月

[illegible]

最後迄買支へ 先限を始め今後の時期 採算期なり

[illegible]

下關相場

[illegible]

白米標準價

二十三圓七十錢

小賣白米

一等白米	二十四錢
二等白米	二十三錢五厘

增に多く籾の入津日

[illegible]

仁川米豆取引所仲買人 十仲買店 電話長九〇五番 八三番

仁川米豆取引所仲買人 三巴仲買店 仁川海岸町三丁目 電話一二三一 二三番

仁川米豆取引所仲買人 三仲買 主任 電話一五八番

仁川米豆取引所仲買人 田中金兵衛商店 仁川海岸町一丁目

大阪期米特電

廿四日後場

寄付	二十二圓八十三錢
引	二十二圓九十錢

仁川米豆取引所

二十四日の十一月限

前場寄付	[illegible]
後場寄付	十八圓七十九錢

●連絡船上陸客

廿三日午前八時五十分釜山入港新羅丸

村松之助、高橋次太郎、乃山伊太郎、同清、伊ロ六之介、市川喜五郎、中井才郎、松田みさ、子、同ふみ子、同なか子、守村盛太郎、同やす、な、松原文次郎、山本忠美、松村嘉造、八代合

山本丑松、佐野仁作、同とく、森田すわ、宮崎太郎、川勝善七、吉永浩人、同綾、川口武吉、植松巳之助、加藤房治、井上芳太、同房郎、同謹子、吉田喜輝、東方三、問田々、岡田太郎、同

讀者文藝課題及募集規定

[illegible]

□募集規程

▲用紙は端書叉は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事

[illegible]

天氣

晴れ一時曇り

(廿四日午後六時迄)

[illegible]

時代の要求は

斯の如き至便の船舶を産めり

百二十噸の帆船に五十馬力の機關を裝置し 若松仁川間を七日間に航行

戰亂の勃發以來海運界未曾有の活況を續け船腹不足に總べての方面久しく困惑せる今日、時代は遂ひに造船界に火急の革新を促した、即ち汽船の建造はよし小規模にしても多大の經費と時日とを要し帆船の航行は頗る不確實にて外海輸送の利便を缺ぐと云ふので茲に帆汽併用の簡便法が考案せられた元より新造船ではなく現下の急に應せんが爲め古い帆船を修理して

■機關を据付■たと云ふに過ぎぬが此の時代の要求に應じた妙清丸は十月十九日初めて仁川へ入港した、噸數百二十八噸の帆船で船體も頗る古いが之れに二十五馬力の燒玉式瓦斯機關二臺を据ゑて二個の推進器を備へて居る、而も此の二臺の機關たるや今日より之を見れば殆んど前世紀の遺物と思はしむる位の舊式で以前は土佐沖に於て鰹漁業に從事せし小汽艇の廢物を利用したものであると當時船體の構造や機關の全部に亙つて詳しく實見せる某氏の談に依ると二臺の機關を以てしても

■五十馬力は■愚か三十馬力も骨折つて出す位に過ぎざるべしとの事であるが同船は一百噸の石炭を積載し折柄風浪狂ふ玄界を突破して、初めての朝鮮航海に動もすれば屢々航路を過まらんとせるにも不拘倘ほ且つ若松出港以來十一日にして仁川へ到着して居る、是を以て見れば普通平穩時に在つては優に六日乃至七日にして仁川若松間を航行し得べく誠に驚くべき新記録と云はねばならぬ、而も帆機併用の船であるが故に機關の破損に會つても困惑する事なく

■逆帆の不利■に遭遇しても更らに痛痒を感せぬ譯である、若し夫れ順風に帆を孕ませ之れに馬力を加へて疾走せしむれば艫邊浪を蹴つて更らに一層の快速力を出すに相違ない、同船は本年六月に檢査を受け高知縣の澁澤某氏の所有であるが最近釜山の許斐氏に讓渡されたとの事で仁川堀製鹽所の石炭を積載して入港したのである、燃料には總べて木炭を使用して居るが一時間の消費量八貫五百乃至九貫、一日二百十六貫を使用するとすれば仁川若松間

■七日の航海■を要すとし内二日を帆走と假定しても五日間に一千八十貫を消費すれば足り之が金額を假りに一貫十五錢に見積つても僅かに百六十二圓を要するに過ぎない然も目下の運賃は如何若松仁川間石炭一噸八圓四十錢とすれば二百噸の運賃に一千六百八十圓を得る譯で之は大體の想像に過ぎないが事實は大した相違は無い其の利潤する處頗る莫大で數月を出でずして恐らく船價は償はるゝに相違ない目下船腹不足、運賃昂騰、釜山の如きは

■穀類の運賃■百石九十圓が百八十圓の倍額に値上げした結果危險を忍むでも帆船輸送で玄界を横斷しようと企てつゝあるが如き現在に於て時代の産物たる此の種の船舶が比較的簡便に成功すと云ふのは獨り船主の利益のみならず一般荷主の享受する利便も亦決して尠少ではない、將來必ず仁川附近にも之が建造を見るべく而して沿岸の穀類運搬にでも使用さるゝ樣にならば當業者の至幸は決して朝鮮船に積載して不安定の搬出を爲しつゝある現今の比ではあるまい

平均値段 一節 十八圓七十八錢 二節 十八圓七十八錢 三節 十八圓七十九錢 四節 十八圓七十九錢

●府尹奉祝夜會

楠野仁川府尹は來る三十一日午後六時より官民數百名を仁川倶樂部に招待し天長節奉祝夜會を開くべく既に夫々案內狀を發せり

●出穀色めく

新穀の出廻り例年に幾分遲れたるの感ありしも昨今漸々廻著あり殊に斗量區附近頓に活氣を呈し穀類山積の荷車絡繹として繁し、仁川米豆檢査所の取扱へる一日以來の數量は二十日迄に總數四千七百五十八叺に達し内、中米白四十五、玄米三十九叺其他は悉く大豆なるも廿二日の如き一時に増加して午前中玄米百十七叺の檢査を爲り

●資本百萬圓の製肥工場

鎭南浦に設立計畫中なる兵庫縣別府港所在多木肥料會社々主多木久米次郎氏は去る九月中旬鎭南浦德兩機なる稅關用地中四萬八千坪の乾潟地の貸下を鎭南浦稅關經由總督府度支部に出願したるが許可あり次第十四五萬圓の巨資を投じて埋築をなしたる上朝鮮唯一の燐酸肥料の製造を開始すべく目下著々と畫策中なるが肥料の原料たる燐鑛は之れを南洋に求むべく總資本は一百萬圓にして多木氏一個人の事業として往く〱は久原製鍊所と商議し流酸肥料の製造をも開始すべしと尚埋築及び工築に關しては多木肥料別府工場主任平野房太郎氏專ら事務を掌ること決定せる由にて遲くも來年解氷期より事業著手に至るべしと

●品評會出品

二十七日より開催の筈なる朝鮮釀造品々評會に對し仁川より出品すべき點數は清酒六、醬油五、味噌二、合計十三點にして既に夫々期日內に全部發送を了せり

◉普通校運動會

仁川公立普通學校にては來る二十八日午前九時より山根町運動場に於て秋季運動會を擧行すべく數十種の趣味多き競技を爲すべしと

渚の砂

■隣家荒しの女 大阪府東成郡中本町古者屋寺內庄吉の妻ぶん(三五)は隣家大橋秀之助方から衣類三十餘點を竊んでゐたことが發覺して逮捕された

■坑長を●●●害 福岡縣嘉穗郡大谷村目尾炭坑々夫山川次六(二八)は坑長南儀一(三一)が約束の日に賃金を支拂はないとて二十日ヒ首を以て儀一を慘殺した

■小學生慘死 岡山市岡山女子師範學校附屬小學校高等科一年生澁谷秀子(一五)は二十日校庭の廻旋塔の綱にぶら下つて遊んでゐる內に塔の柱が腐れ目から折れて慘死した

■三人孝行姉弟 熊本縣阿蘇郡南小國村穴井すゞ(一四)妹はる(一二)弟康三(九つ)の三名は揃つた親孝行者として此ほど郡長から表彰された

■狂女の慘劇 神戸市御影町岸本樹太郎妻はる(一九)は精神に異狀を來たし十九日夜當才の作を絞殺し己れも庖丁で自殺を企てたが果さない

■恐ろしい片栗粉 大阪北區北野高垣町足立元治方で長女繁子(一六)二女馨子(一三)長男勳(一一)の三名が十六日夜片栗粉を練つて食ひ姉の二人は間もなく絶命し弟も危篤に陷つた片栗粉を分析した結果亞比酸を含んでゐた事が判明した

■劍道教師の情死 熊本市外大江村雜貨商野中辰藏は元劍道教師を勤めてゐたが二十一日同地の料理屋に馴染んでゐた日の出樓の娼妓久吉事阿蘇生の本田ひさ(一九)と短刀を以て合意情死を遂げた

◉製帽を種に詐欺 沖繩縣人儀間松と名乘る本名重信光二(三〇)及び東京生れ內藤善吉(三八)の兩人は九月初め頃仁川寺町五十九山口某の二階を借りてパナマ製造所を設け帽子の製法を教授すると稱して志望者を集め鮮人二十七名の應募者に對し教授料として一人前一圓五十錢宛を徴收し帽子製品に對しては相當の工賃を支拂ふと云ふ甘い約束をして貸き作らせそれ等の金は悉く遊蕩に費消し九月二十五日突然逃走行衞を晦ましたるより二十七名の鮮人は漸やく驚き直ちに警察へ訴へ出でたるより仁川署にては種々探査の結果同人は江華島に渡り同一手段に依りて再び詐欺を爲さんとせるを探知し取押へ本署に引致せるが取調の結果倘ほ二三の餘罪あるもの〻如く二十三日檢事分局へ送らる

◉五十四圓を拾得 仁川萬石洞六十七番地高崎トミ子(一〇)は十九日午後五時頃自宅上、鐵道線路上にて黑革製大型財布を拾得し仁川警察署に届出でたるが在中品は現金七圓八十錢の外郵紙幣其他合せて五十四圓、二十二日に至り遺失者は鮮山森堂五郎氏なる事判明し本人の申出でに依り拾得品を交附せるが謝禮としてトミ子へ金四圓を送れりと

◉黑麥酒の賣出し 大日本麥酒會社京城出張所にてはサッポロ黑ビールを賣出したるが右は秋より初冬にかけて飲用するものにして普通の麥酒に比して苦味少なく且つ濃厚に富りよきため上戸下戸共に賞味せられ殊に病人には滋養に富めるにも因るなるべし

台所の日
▲鯖のたまり燒 新鮮な鯖を求め水洗ひして頭を去り三枚に下ろし腹骨をすき取り骨の付いた所は大形の毛拔ですべて拔き取つて置きます夫に適當に切り分け水氣を去りすぐたまりに一時間ばかり浸しますたまりの拵へ方は並の味醂をさつと煮立てゝさましたものに醬油を加へたものです(味醂に醬油の割は好み次第)時間がたちましたらたまりに浸してある魚を取り出し味噌をふき取つて適當に金串を打ち落ちついた强火で燒き上げます

秋の開城

▲華藏寺の紅葉

開城驛を距る三里華藏の古刹あり滿山の紅葉今闌なり奇岩に害苔蒸して松間の紅楓、實に近郷に冠たり、開城より三里山麓に至る間担道、人力車の便あり、車を下りて山徑十數丁山顛華藏寺に至る兩側

◆悉く楓樹を以て蔽はれ左顧右眄、途の險なるを覺えず、山寺には恭愍王の自畫像を祕藏し來遊者の觀覽に供するなり、午前九時十分の北行急行列車に投ずれば午前十一時開城驛に到り直ちに人車を驅り滿山の

◆秋色を恣まゝにして歸路人車を驅れば午後五時四十八分の南行急行車に乘じて七時半京城に歸著するを得べく來る日曜頃迄が見頃なるべし

▲朴淵の秋色

開城驛を距る四里、華藏寺の紅葉と趣を異にして景趣雄大なり楓樹、紅葉は奇松奇岩の間に點在して遠望近望、大陸的秋色を味ふを得べし、高麗王朝歷朝の堅塞にして中に有名なる朴淵の飛瀑懸り

◆山容水態 二ツながら佳にして奇、健脚者の遠遊に適す、開城を去つて二里山麓に達すれば之より兎徑險岨にして奇幅岸腸瀧水を渉り棧橋を築ぢるにあらざれば山の奇なると風趣の佳なるを味ふ能はず、山中古刹あり一を觀音寺と云ひ他を大興寺といふ共に一食十五錢を投ずれば

◆山僧野餐を供して深山の幽氣に安臥するを得べし、其風景の雄大、と景趣の變化とは高雄栂尾の秋色の得て企及し得べき所に非ず、單だ此地の秋色は途人車を通せず、馬背また危險にして草鞋卷脚絆の健脚者にあらざれば之を味ふこと能はざれば

◆婦女子の觀覧に適せざるは一の遺憾なり、北行前九時十分の汽車に投じて、十一時開城驛に下車すれば薄暮朴淵に到達さるを得べし夫より山寺に一泊して翌曉飛瀑の天外より落つるを眺め悠々山泉と秋色を味ふて歸路に著けば午後五時四十八分の開城驛發の南行汽車にて午後七時三十分南大門驛に達するを得べし

▲四里の棧道

若し夫れ健脚にして閑遊の餘暇ある士は華藏寺の紅葉を賞して同寺に一泊し翌曉四里の棧道を踏破して朴淵に到り翌日朴淵より前記の歸路につけば棧道の秋色と奇岩怪石とは到底大陸的旅行を試みざる旅客の想像し能はざる所にして所謂楓嶽の秋色も之には過ぎじと感せらるゝなり棧道頗る危險にして四里の行程殆んど一日を費すの覺悟あるを要す、今日既に紅葉山に滿つ、來る日曜迄を觀賞の好季とす(開城通信)

左甚五郎

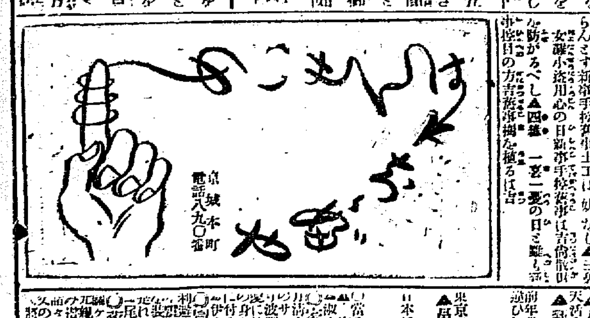
第六十四席 桃川如燕口演 浪上義三郎速記

門跡樣の檀家內庄始め奈良勘、大惣、中半、坂七、田島屋、松喜、尾張屋等が打寄つて評議をしたが尾張屋が愈々俺達の云ふことが通らなかつたら寺を取替やうと思ふと云ふ一言を內庄が聞いて 內『尾張屋さん、それは何うも强いね、 惣『宗旨を變へる譯ぢやアないでせう 尾『然うですとも、先祖から傳つて居るんですから宗旨を變へる譯ぢやアない、只寺を取替るといふんで 半『それなれば骨を折つて遣ることも出來る、お前さん何うでげす、石搭や何か直に擔ぎ出してしまひ、一旦家へ持つて來てそれから寺を何處にかしやうといふので、石搭を運んでも構はないのですから先祖代々の墓を無くしてしまつて過去帳や何かそつくり渡して貰ふことにしませう 庄『それまで覺悟をしたのなら大丈夫だそれちやア然ういふことにしませう』恐しい暴いのが出懸けて來て直に石搭を擔ぎ出さうといふ樣なことを纏めた、揃つて行つて此の話しを作事係の本淨寺へ申し入れると本淨寺も殆んど困つて御院代と相談をする、御院代一存で計ふ譯にも叶かないから御前へ是をお聞きに入れるといふことになつた御承知の通り淺草の門跡樣の御前は是は實に大したもので、何事なお聞きなすつても萬事宜きにと被仰る、それが洵に始末が悪いのだ何ういふ風にして宜いのだか判らない、委細承知いたしましたと云ふので退つた、茲で院代と作事係の本淨寺樣と相談をして、煎じつめた處で仕方が無いから一札に對つて 木『借御一統の衆、お待せをして相濟みませんが、此度の大普請に就ては貴下方に御心配を掛けて濟ない、何を云ふにも京都御本山からの指圖で、あゝやつて大工坂本藤重が職人三十六人を伴れて仕事に乘込んで來た、是を無碍に本山の指圖を反古にしてしまふといふ譯にも叶かず、又貴下方のお話しを聞いて見ると、三五郎の申すところも、一度最にござりまする、そこで、皆さんのお顔の立つ樣、又三五郎がそれならと承知してくれまする樣にと種々御院代とも相談をいたした揚句、如何でございませう此度の大普請を双方に申付けて、猶且京都大工と同じ樣に三五郎が職人三十六人を扱つて仕事にかゝると大普請を京都大工と江戸大工と兩樣で遣ろうといふことにお計ひを願つて、お互ひに濟せるといふ、まア前くかかんか貴下方の御盡力のある處だ、それより外に何ともいたし樣が無い、是は貴下方に煎じて煎じつめた處のお話しで、如何なものでせう』內庄が是を聞いて 庄『皆さん、今御作事係のお話しなら是は三五郎に引込みが出來んといふ樣な譯では無い、仲間へ顔向けの出來んといふこともなからうと添人でも考へろ、其の話しをいたしませう、それで肯かんければ我々も手を引くまでのこと、御院代と御作事係が是程御心配下されば我々も申し分も無い、早速立歸りして三五郎に申し聞けませう、何うです皆さん 一同『宜しうございませう』と皆々は立歸つて來ると內庄の家に三五郎は皆さんに心配をかけて濟いて澄して居られないと思ひ歸りを待つて居りました、皆々は立歸つて來て右の話しをいたしましたから三五郎も大層喜んで 三『何うも皆さん方のお骨折で私も土地を離れず、大工仲間へ面出しも出來る樣になりました、何れ御名々も洵に有難う存じます、早速門跡樣へお禮に上ります、御院代御作事係にもお禮を申上げます』と三五郎は喜んで立歸りました

京城旭町三丁目 京染商 つたや 電話一二九七番

花柳病 皮膚病 須古醫院 京城明治町二ノ三二（元實業銀行跡） 電話二一〇二番

十月廿六日 九星 曆 舊九月十一日 辛丑 本命 五黃 八方 半先勝



演藝案內

壽座 京城壽町 電話五七八番 東京新時代劇愛山義一行 有樂館 電話五九七番 活動寫眞常設館 稻荷座 本町五丁目 新派 壽館 京城本町 電話一〇五〇番 山村連秋季溫習會 黃金館 電話二三六三・二三六六 浪花館 京城明治町 電話二六〇番 大島伯鶴 大正館 櫻井町 電話八七三

軍隊毛布 東京神田 東京織物仲買 神田振替東京七二三〇

梅毒藥 唯一丸 一週間分八十錢 二週間分一圓五十錢 一ヶ月分三圓 特製分四圓 東京牛込神樂坂上 中西奎光堂 振替千五百

易 周介石 明治町三 岡村介

色も艶も申分ない あらが添はナイスが第一 赤毛 浮ナイスからまる ナイス五大特色 ▲僅二十分で染る ▲永く保ち褪ず剝げず ▲艷々と黑く美しく ▲襟枕に浸着せず ▲用法至極簡單 大瓶七十錢 小瓶四十錢 男子用三十錢 發賣 大阪 東京 丹平商會 到る處の藥店化粧品店にあり

櫻谷商舖 京城北米倉町三〇 前小路一 電話二八五四番

汽車時刻

京釜線（南行）　同（北行）　湖南線（南行）　同（北行）　釜連絡　京元線　長泉線　京仁線（南行）　同（北行）

[illegible]

各宮家御用品

美顔白粉

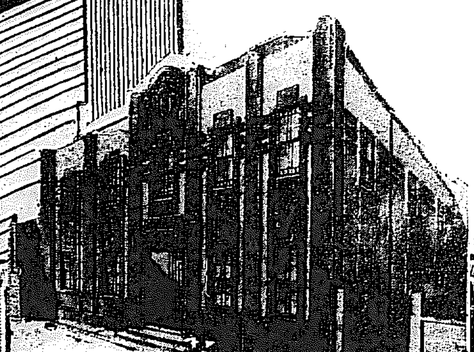
生れつき色が白いやうな白さに附く無鉛白粉

上流家庭に信用厚き白粉

今や美顔白粉一ケ年の製産高は百萬圓を超え、三都はもとより各地到る處に於て、第一位の賣行を見るやうになり、貴族方などの中で、從來舶來品以外のものを殆どお用ひにならなかつた方々までが、進んで此白粉を召されるやうになりましたにつけても、如何に美顔白粉が貴族上流方の御家庭に御信用が厚いかお解りになりませう。

産額の多大と賣行の最高とが證する品質の優秀、其優秀なる品質が呼ぶ湧くが如き高評!! 誠にこれ現今總ての婦人の要求に適したる美顔白粉に於て始めて見られる所であります。

白萩



名譽ある美顔白粉を創製したる

桃谷研究試驗所

所長　藥學士　桃谷幹次郎
技師　理學士　西澤勇智志
仝　醫學士　米倉昌達
仝　千葉藥學士　小磯勝次郎
仝　同藥學士　齋藤銳助
顧問　藥學博士　丹波敬三氏
　　醫學博士　山本淳二氏

京城日報 第三版
(年中無休刊) 大正六年十二月十五日 THE KEIJO NIPPO 第三千六百三十號 (一)
二十五日朝刊 (朝夕刊併せて八頁)

支那漫遊

吉長鐵道

蘇峯生

曠原如ㇾ海天如ㇾ水。萬里清光雁影幽。風露淒淸客不ㇾ寐。長春驛畔值中秋。

是れ予が長春旅舘に於ける、枕頭の偶成也。然も予は毎夜早寢快眠せり。旅程随處に、宴會を謝絶するは、禮を缺くに似たれども、病後の久客に取りては、此れ以外に致方なき也。

十月初一、長春より吉林に赴く。偶然にも昨夜古谷代議士と同宿し、今朝又た同行せり。吉長鐵道は、七十九哩にして、其の資金の半は滿鐵より出づ、近頃其の經營も、滿鐵の手に委せらる可しとの説あり。往年輪田中將は、此の鐵道は日本の資金にて出で來りたるに拘らず、日本の臭ひだにせずと憤慨したり。されど今は聊か其の臭ひ丈は、認め得らるゝに似たり。若し滿鐵道に比すれば、車室も比較的清潔也、係員も丁寧也、而して停車時間も餘り長からざる也。車内にて茶を出し、温湯にて濕したる手拭を出し、何となく支那茶館に赴きたる風情あり。

路は漸く岡坡、丘陵に入り、土們嶺驛より、愈よ山間を紆廻して上る。一路の秋葉、必らずしも楓樹と云はず、黄紅交錯、百樹千草錦の如く、眞に愛す可し。大手に飽きたる我等は、聊か茲に快心の光域に接觸したり。嶺を下り盡せば、松花江畔の平原に出づ。乃ち哈爾賓にて別れたる江水に、其の上流にて、再會したる也。

去來流星の如し

吉林停車場に著すれば、深澤領事や、孟督軍の名代や、出迎られ、直ちに馬車に拉し去らる。前衛六騎、應接暇なし。予の馬車は、吉林第一の名馬、督軍參謀長が、頗る大金を投じて、購ひ得たりしものとかにて、騎兵の後を趁うて飛ぶが如し。予は唯だ馬車より、彈ね飛ばされざらんことを力めたり。直ちに孟恩遠將軍に面會す。斯人亦た卒伍よりの出身にして、歳は六十内外なる可し。張勳復辟騷動にも、與みし、已に身を危くしたりも、纔かに今日に於て、事無きを得たりと云ふ。轉じて省長郭宗熙氏を訪ふ。應接間は、立派なる西洋間にして、主人も亦た洋服の著こなし、舉動、進退、立派なる新式紳士たり。但だ支那當世流の儀標ならざるを嘉みす可し。相ひ伴うて北山に上る。山は松花江畔にある岡陵にして、其上に廟あり。吉林の全景、此れより俯瞰す可し。郭省長、此廟に於て、宴を張りて、予等を饗應せり。元來吉長鐵道往復の間、僅かに二時間を剩すのみ。而して此の二時間内に、見物し、訪問し、談話し、飲食し、往來す。眞に流星の如し。此の短時間に、一切の滿足を、予等に與へられたる、在吉林日支の官民諸君に對しては、多謝に禁へず。特に予等の爲めに、發車時間十分を猶豫せられたるは、恐縮の至り也。されど是れ下車當初より、支那官憲よりの發議たりしは、申す迄もなし。(大正六年十一月二日朝長春に於て)

航空界と歐洲戰 (七)

國民飛行協會長 長岡外史中將講演

右は私が空防と云ふ狹い見地から申述べたのであるが、更に廣い見地から言ふと、吾が大和民族は土地に對する觀念は頗る深刻である。一尺の土地と雖も敵に奪はれんとする場合は、死を以て防ぐ。然るに「空」に對しては、全く觀念が無い。併し『空』なるものは、御承知の如く海と陸とを合せた丈の廣さを有つて居る所の廣大無邊なものである。此の利益を文明國民として捨てゝ顧みぬとは實に愚の至りではない乎。否どうしても捨てゝ置けぬ今日の時代である。故に天空の廣大無邊なる利益を開拓して吾々の文明に新らたなる利益を增す事に努力するは、吾々國民の一つの麗はしい職業であると思ふ。私は考へるのである。歐羅巴に於ては飛行機は獨り軍事のみならず、種々なる方面に用ゐられて居る。或は又英佛の商事會社に於ては、目下戰爭に用ゐられ居る飛行機並に飛行家を以て、戰後英佛間の交通聯絡を、郵便、小包の定期航空を開かうと計畫して居る。或はサンチヤゴと云ふ飛行家は、亞米利加二十一共和國政府の同意を得て、南北亞米利加の運輸交通を開く計畫をやつて居る。或は又亞米利加合衆國のロオンと云ふ一少女は市俄古から紐育までを時間四十二分で飛行して大統領に書面を渡し、大統領より其の妙技を褒められたが、今度參戰に當り特に大統領より軍服を著する事を許された。其の他開戰前に於ても伯林、マクデブルヒ間にツエッペリン飛行船の定期航空があつて、其の賃金は汽車切符よりも廉かつた。更に面白きは大正二年の十二月伯林の金持共が十二月二十五日のクリスマスに毎年同じ人間が同じ處に集まり同じ事を爲て遊んだとても別に面白くも無い。今年はツエッペリンの飛行船を借上げ、空間にホテルを拵らへて飲まうぢやないかと一人が言出した。それは寒くて不可ないでせうと第一に不同意を唱へたのが御婆さん。いや貴女の好きな様に、七十度にても八十度にでもして上げます。飛行機にはちやんと暖房裝置がしてありますから御心配は要りませんと、遂に相談が纏まり、男女三十人がクリスマス當夜空中ホテルで愉快に一夜を過した。曉方陸に著いたが、眞先に驅付けたのが新聞記者、昨夜の御感想は如何でしたと質く。答へて言ふには、地上のホテルと何等異る所無いのみならず、寧ろ得も言はれぬ壯快であつた。が併し、一つ物足らぬものがあつた。其れは何でありますかと問ふたれば、撞球臺が無かつた事ですと……斯の如く空間文明の一部分は歐米人に依つて先鞭を落られて居る。

私は昨日も四回學校で講演をなして大分咽喉を痛めて居る。こゝ十分間程休憩して、此次には歐洲戰爭が經濟界に如何なる影響を及ぼし、如何なる教訓を與へたかと云ふ事に就いて申述べやうと思ふ。

也足軒雅集限韻 (二)

章庵 張志淵

得蘇稀一笑。緑西歸是雁來天。

金鍋腰賞伯仙日。川蜀奇遊似昔年。

進寺清鍾鈴世。雲岩老石共參禪。

眉間錯帶烟霞氣。屆是々酌酒間。

同 雲山 白鶴洙

一朋遠赤奇緣。剩賦曾多海外天。

秋光藝入黄花世。人事無端白髮年。

地非西域誠眞佛。庵起寄蓮化道禪。

文社頼君醉有大。始知今日會團圓。

同 川雲 魚潭

也足軒中也足緣。群仙雅集菊花天。

思齊夢多仍一見。新交勝十年。

誰道錬梅寒士已。爲黒傭是眞禪。

浮生逢別何須說。只信氷心日々圓。

梅下 崔永年

誰知老了生緣髮。此秋林結契天。

轉萍蓬終有地。一吟湖嶽兩忘年。

雙勝劍格渾回日。行脚金剛學十禪。

一事參禪何足恨。祇憑根境月恒圓。

子堂 尹喜求

轉頭一得是機緣。也足軒當譜大天。

獻歸於巴蜀路。衣巾古似若彭年。

泥非乳水頭成醉。催殺鷄鍾未妨禪。

却笑群人留紹記。慢于茶搭夢時圓。

本紙定價 一ヶ月金八十五錢
廣告料金
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社
振替貯金口座京城三〇〇番

誰 (101)

布施生譯

賴太郎の行狀は又變つて來た、以前は放蕩を始めた、今度は何に金を使ふのかと母親を怪しませるやうな生優しいものでは無く、公然に女優や藝者と關係し無暗に自動車を乘廻し大金を賭けて花牌を引く、加之に縮解はもう一つもせずに前には母親を許して金を引出してゐたのが此頃は威して財布の紐を解かせるやうになつた、から九つで推つたものでは無い、一月たつかたゝぬに母親の貯へは皆無になつて今は寥寥の操廻しで家政費の中からやつと幾許かの餘裕を拵らへてゆくと云ふ有樣になつた、流石の保部氏も近頃餘り金子の入用が激しいので或時『これぢやあ市中の品物は悉皆買へるぜ、こんな事も偶にはいゝがね、何時もかうでは少々困る』と苦い事を言ふやうにもなつた、こんな調子で早晩最後の日が來るに違ひない事は夫人よりも孫嬢にはよく分つた、孫嬢はそれとなく夫人に警誡を促したが夫人は『いゝわ賴太郎だつてさう何も買ふあてが無くなつたら自然行狀も直りましやうよ』と言ふ外はなかつた、其内最後の日は愈々來た、夫人はもう一厘も夫から餘分の金を貰ふ口實がなくなつた、賴太郎の方では容赦が無い、夫人は困りきつて『もう私の手には寶石が少々あるだけですよ、それを持てお往きかね』さう聞くと流石の賴太郎も一寸顔色を變へて躊躇したが思返して『よし貸つて往から、質屋へ打込めば幾何かになるだらう。』そしてそれを引擢へて飛出したが、かう云ふ財源があると分つてからは賴太郎は今迄より一層激しく毎日のやうに夫人を強請たてた、夫人の寶石は段々無くなつた、次には一つ〳〵強請取られた、夫人はどうも堪りかねて今度は利介に相談した。

數箇月の間利介は夫人から遠退いてゐた、是はオトロンから歸つて直に一度夫人を訪ねて往つたのだが、其時はもう賴太郎の後で糸を引いてゐるのは利介と見て取つたので、夫人は自然悉ない素振をして見せた、利介はそれきり保部家の門を敲かなかつた。孫嬢は熱心に夫人が利介と相談しやうとするのに賛成した、賴太郎がいくら暢氣の無鐵砲でも誰か尻から突かれてゐるのでなければあんな無法な事をする筈はない、あれは屹度利介が自分の足にすると云ふ目論見で何か爲のある惡策を企てゝ態とあんな事をさせて居るに相違ないと目星をつけた、それで一日も早く夫人と利介との間に相談が届いて、此事に結局がつくやうにと念じてゐた。

夫人は早速手紙で利介に知らせておいて其翌日彼を訪ねた、そして此頃の賴太郎の行狀を訴へると利介は皆まで聞かず笑つて、卓子をとんと叩いて『實に怪しからん奴め一體何と心得てゐやがるか、奥様實は此四箇月ばかりの間に私の手からも七八千圓は強請つていきましたよ。』夫人が疑はしさうな顔を見て利介は机の抽斗から賴太郎の受取書を出して見せた、計算してみるときつかり九千圓になつてゐる『まあ、あの兒は私の手からも丁度一萬六千圓取つて往きましたわ。』

利介は悉に夫人を慰めた上、賴太郎が金の使途を彼是と詮索し、什麼に之から賴太郎の養育費は自分が引受けると言足した、夫人は喜んで自分が從ふ利介の性質を思ひ違へてゐたのを悔んだ

(雜誌抄)

▼食養法 (食物の營養上)

▼味噌汁 は豚肉を煮込んだ汁、但し甘白味噌よりは辛味(赤)味噌が良しとす

▼魚類 は海魚よりは川魚の方良し。海魚なれば赤身のものを避け白身のものを撰び、而して可成骨ごと食する様にし、總て味噌にて調理するが良し(鰯、鮎、めざし、干物、沙魚の佃煮等最も良し)

▼海草類 は總て之を食して良し。就中昆布、ひじき、若布、荒布等

▼漬物 は總て古漬が良し。就中澤庵漬、奈良漬、味噌漬も亦良し。

十三版 勤倹堂主人述 債券利殖秘傳
新債券時賣切
勤債券が空前の好況裡に即告したる裏面の消息を知れ

實業之日本
財界を警戒す
近頃東洋モンロー主義
成金を驗す 山本唯三郎
鐵製防錆防腐新發明
三菱の大改革
製銑製鍊
青年團の統一
計畫無用也 增田社長
年收七百萬圓の商賣
商人は人中の獅子たれ 浮田博士
婦語 俠話 中野武營
物理と倫理 新渡戸博士
淨水器の新發明
戰爭で儲け長者
有効健康
民間製鐵業者の能力
十二月十五日發行 定價一冊十五錢 東京京橋 實業之日本社 振替東京三一六番

時計及蓄音器卸商 喜多金光堂 京城黄金町二丁目 電話一〇一五 振替京城七八二

世界的文豪を不朽に記念すべき金字塔
漱石文學瑣談
□文學者としての夏目 □戰後の文壇 □作中の人物 □余と子規 □將來 □文章 □私の處女作 以下十數篇
津田青楓氏裝幀 三六版 天金箱入 美本 定價金一圓八十錢 送料六錢
新刊 漱石全集にも收められざるもの、先生の文學觀を知り先生の人格を窺ふに
發賣元 東京神田表神保町 上田屋書店

直通列車運轉 (毎日一回)
來る十一月一日より時刻を改正し京元、咸鏡線を除く
南滿洲鐵道株式會社京城管理局

中村齒科醫院 明治町佛國西教會坂下 電話一五八三番
分院 (黄金町二丁目郵便所前) 電話一八九番

漆器 指物
静岡 丸五漆器店 京城出張所 京城本町二丁目
殊に本年は佳品を精選し廉價にて御用命願上候

眼鏡 米國製 金張眼鏡
中村眼鏡店 京城本町一丁目

購買入札
白米(上等米)六拾石外四點
右購買ス詳細ハ大正六年拾二月貳拾五日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

畜産 十二月號發行
第三回全國畜產大會

フォード
ハップモビル
ウードモビル
自動車 東洋一手代理店
今般瀬章三儀當社を辭任し小生更つて赴任致候に就而は自動車及附屬品を特別廉價に販賣仕る可く又事務も丁寧迅速を期して從來の御厚誼に報ひ申す可く此段謹告仕候
京城西大門外竹添町 セール、フレザー京城出張所 主任 ウ井リヤムスタイルス

朝鮮鑛石學及採鑛法
安蘇善四郎著
四六版二百五十頁 並製壹圓貳拾錢 上製壹圓四拾錢 送料六錢
發行所 京城本町二丁目 ウツボヤ書籍店

朝鮮總督府編 朝鮮鑛業令
▲附錄 有用鑛石鑑定表▲
本文に採鑛法、鑛石發見法、鑛石分拆鑑定法、各道地質鑛脈、鑛山所在地
鑛物に關する一切に涉り初學者にも一讀了解し得る様述せり當業者諸氏の是非讀まるべき參考書也と信ず
發行所 京城本町二丁目 ウツボヤ書籍店

朝鮮植物調査書 鷺峰著
四六版洋裝 定價九拾錢 送料六錢
▲本書の公にせらるゝや學校、病院、醫生、藥店、植物採培者より大好評を以て迎へらる
▲漢方藥料植物に付原名の外鮮名、効用、產地、附錄には漢藥價格表を付す 朝鮮に於ける藥用植物書なり
大賣捌 京城太平通 京城日報代理部、大阪屋號、巖松堂、日韓書房

米經由貨物制限

最近米國政府の發布せる輸出禁止令は米國を通過輸送する貨物の輸出を制限せり、該制限は太平洋沿岸諸州を經由して歐洲へ輸送せらるゝ日本貨物に適用せらる、但し聯合國に仕向けられたるものは此限りにあらず(華盛頓電報)

雲南軍重慶に迫る

雲南軍は確實に隆昌を占領し重慶貴州間の聯絡を斷ち進むで貴州を攻擊中なるが貴州は既に孤立に陷いれるを以て降伏の外なかるべし別報に依れば江津も二十一日雲南軍の奪ふ處と成り今や重慶を屠らんとし進軍中なりと一方北軍第十三旅(旅長李炳之氏)は南軍を邀擊すべく重慶を發し江津に向へり(重慶特電)

南軍衡山防備嚴重

南軍は衡山を撃退してより三十營以上の兵を衡山以北の線に展開し嚴重なる豫防陣地を築き十九日以來北軍の渡江を防ぎつゝあり(廣東特電)

陳督軍を討滅せん

惠州獨立軍は二十三日莫擎宇、非天聲南氏連名にて獨立宣言を發し陳督軍との關係を斷絶し陳炳焜氏の討滅を期すべき旨を聲明せり(廣東特電)

幣制借欵と米國

米國政府は支那政府に對し米國は支那が目下聯合國に交涉中なる一億圓幣制改革借欵引受けに加入するの權利を保留すとの通告を爲せり尙米國政府は右の擧に出でたる理由を說明して曰く米國は幣制改革計畫最初の推奬者にして且つ最初の交涉に關係したる歷史を有するが故に如上の主張を爲す(北京特電)

汪外交總長辭職

汪外交總長は二十三日の國務院會議に辭表を提出し各總長は留任の勸告を爲せり(北京特電)

□各宮殿下へ大勳位御授與

本月三十一日天長節祝日に際し久邇宮多嘉王、朝香宮鳩彥王、北白川宮成久王、東久邇宮稔彥王各宮殿下へ大勳位菊花大綬章を授けさせらるゝやに承はる

◎朝鮮紡織總會期 十一月十日と決す

豫て創立計畫中なりし朝鮮紡織株式會社は滿株に達し第一回拂込みを了せるを以て來る十一月十日東洋協會に於て創立總會を開くことに決定せり(東京特電)

觀瀾亭雜俎

蘇峰生

○今日の別墅杯と云ふは、動もすれば待合風の家屋を、風光明媚の地に建てたるもの多し。人各々其の趣味あり、吾が金にて吾が別墅を作るに於て、他人の異議を挿む理由なきや勿論也。されど折角潔山の金錢を有するからには、今少しく思ひ切りて、豪宕なる趣味を發揮して、然る可き事ならずや。

○若し出來得可くんば、幾百町步の農場の眞中に、別墅を作り、一年の若干を、其中に暮すは、當人は勿論、家族に取りても、其の心身の健康を、兩ながら專らにするを得む。是れ中以下の人に向つて、注文す可らず。我が華族、及び豪富に向つて云ふのみ。現に記者の知る所に於ても、之を實行したる人少しとせず。但だ此が、一般的に流行せざるを、口惜く思ふのみ。

○如上の資力なき者に於ては、所謂る一坪農業、一疊園苑を奬勵したしと思ふ。若しそれさへ難しとせば、せめて一個、二個の季節的盆栽にても、緣日より購ひ來らしめよ。

○農業の趣味は、人をして堅實ならしむ。凡そ農事程、因緣の應報、明白、確的、剴切なるものあらず。農業の趣味は、人をして耐久力と、恒心とを涵養せしむ。播種より收穫に至る、必らず一定の順序を、經過せざる可らざれば也。農業の趣味は、人をして天地と一體ならしむ。一雨、一風にも、恒に關心すれば也。農業なる哉。

安東縣

▲安東招魂祭 安東驛在郷軍人分會主催の秋季招魂祭は豫定の如く廿三日午前九時より鎭江山表忠碑前に於て執行され……

▲安東驛…… 新義州病院は豫ねて新築中なりしが此の程完成したるを以て二十三日午後一時より新義州及び安東縣在住の官民有志を招き落成……

……田湖一は二十四日姬路に於て開かれたる軍法會議にて有罪と決定されたり(大阪特電)

神戸に有菌鼠

……

◎北濱依然大混亂

北濱株式市場の恐怖時代ともいふべき大瓦落は今尙熄まず殊に人氣の目標たりし船株の爲め重傷を負ひし者多し(大阪特電)

◎小林財務官發

支那財務官法學博士小林丑三郎氏一行二十四日朝下關着同夜發關釜連絡船にて渡鮮の筈(門司特電)

◎遞信協會 島田監理課長談

朝鮮遞信協會の組織については其の詳細の由並に目的を既報せしが更に監理課長島田志郎氏は曰く

朝鮮

▲遞信協會 の組織は多數局員の精神的向上を圖り又其の人格の修養上頗る必要の事に付池田前長官在職時代より企圖されしも機運未だ來らず今日に至りしなるに持地現長官の就任あるや協會成立の議一進し最近京城日報紙上に其の組織を公表し目下各課長等掌郵便局長等委員となり諸般の創立事務を執り居れる次第

一著の必要は協會員の募集にあり故に現今此の方面に手を盡しつゝある次第なるも何分郵便局も隨分遠隔の地に所在のものあり又燈臺勤務者の如き頗る不便の地に在住せるに付事は意の如く運ばず其の全部の纏まりまでには約一箇月を要すべく彼是準備等の關係もあり協會にて會誌の發行等を行ふは大正七年一月に入るべしと思はる又何等協會には國庫の補助なく更に基金をも有せざるため其の活動の資金は單へに協會員の月俸百分の一乃至二百分の一の醵出に待たざる可らざるため大に不足を感ずる次第なれど成るべく心して基金の蓄積に努むる考へなり又協會の事業は會誌の發行

▲慰藉救濟、獎勵、講演及び出版なるが右の中直ちに著手すべきは會誌の發行なるべく支部は遞信局內並に京城元山釜山平壤各分掌郵便局に設置し協會收入の二割を割いて其の活動に資する事となり居れり尙ほ下級者例へば電話交換手の如きは其の加入を勸誘せず會誌の閱讀は然るべき方法にて爲さしむる積りなり

◎物資聯絡運輸に就て(下)

鐵道院西部管理局運輸課長小平信藏氏談

▲同埠頭には 乘客昇降の便宜を得べき設備は設けられたるも貨物積卸の施設は更らに備ふることなく只僅に乘客附帶の小荷物又は特に急速を要する小數貨物の取扱に過ぎず鐵道院としての任務は斯くの如くなるに因り或る期間內に於て出貨夥しきことありとて之れに對應するが設備を爲すが如きことは未だ計畫だに成し居らず若し一歩を進めて此の如き施設を要するとするも充分の研究を遂げざる可らず施設は總て固定すべきものなるに歐洲戰亂の餘波を受け船腹不足の爲め船運賃に比し鐵道便の運賃と差違あるを以て

▲一時的現今 の如き釜山港に貨物の停滯せる狀態にあるを救濟せんが爲め斯かる新たなる設備を施すことは到底不可能なりとす釜山港に於ける貨物は鐵道院線に取りては決して大なりと云ふに足らず而し後日機運の到來せる場合は强ち此れが設備を加へざるべしと豫言も能はず現在にては貨物を本位として計畫を爲すこと能はざるを遺憾とす故を以て貨主側に於ても可成船便に因り輸送を爲し鐵道連絡便に據らざるやう豫め覺悟を爲すことゝせられたし朝鮮鐵道には運輸の餘力あるを以て來月よりは連絡船に積込し得べき分丈は之れが引受を爲すも多分は釜山に於て

▲打切となし 各貨主の便宜に輸送を委することゝなしたるは此れが理由に因れるものなりとす、現今の關釜連絡船は荷客共用なるを以て種々不便の點多し鐵道院に於ては荷客別種の連絡船を建造するの計畫ありやとの問を爲すものあれども本來が乘客本位なるに非らず一時の補足としては斯かる計畫を以て今日の處にては貨物專用船を備船又は就航せしむることあるも之れは唯臨機の處置たるに外ならざるなり(釜山)

◎白蔘十二萬斤

度支部專賣課開城出張所管內に於ける本年度の水蔘採掘收納は十月二十日を以て終了せる筈にて其の收納豫定量約十二萬五千斤なるが紅蔘の製造は尙ほ十月一杯を要すべく前記の水蔘數量より約二萬斤を製出する見込なり、而して前記數量以外の採掘水蔘即ち後蔘は大體卅五六萬斤にして蔘業組合にて之より約九萬斤の本蔘及び三萬斤の尾蔘を製造す可く結局本年度の白蔘製造高十二萬斤に達す可し

……驛の如き昨今頗る盛況を呈し居るが之れがため倖夫と旅舘客引の爭訟絕へず十日夜御成町漢陽……藥町一丁目住倖夫阿相淸太郎(三三)あり……は物をも言はず柴田の左耳を打ち……て鼓膜より出血治病二週間を要する創傷を負はせたるより淸太郎は……

……料理店井筒屋の抱藝妓……いし(二八)と言ひ原因は樓主との折合惡かりし爲め同夜密かに拔け出で入投身したるものゝ如く浮きつ……

◎京畿金融組合現況

京畿道管內九月末現在調査に係る京畿道管內水原地方金融組合以下二十四組合の金融狀況を聞くに組合員數九千七百三十三人平均一組合四百五人前年同期に比し一千九百七人を增加せるが其の資產狀況左の如し

▲負債の部 出資金十萬六千四百二十圓政府下附金二十四萬八千七百二十一圓補塡準備金五萬四千八百十一圓十三錢特別準備金五千百十借入金四萬三千三百十四圓鮮銀預り金五萬四千百二十二圓三 鮮銀代理金六百八十五圓九十八錢五厘雜勘定萬六千四百三十九圓卅三錢四厘利益金四萬九百廿七圓五十四錢五厘合計六十萬〇五百九十圓九厘

▲資金の部 拂込未濟出資金七萬八千五百九十九圓十八錢五厘貸金二十七萬七千五百〇九圓五十五錢共同購入金百三十九圓十四建物其他所有物四萬六千九百十七圓十七錢五厘農銀代理及び雜件貸付金四萬五千百八十五圓十八錢九厘雜勘定七百七十二圓二十八錢預ヶ金十萬七千九百二十一圓十六錢現金一萬二千百八十四圓五十五錢損失金三〇〇百七十七圓五十二錢合計六十萬五百九十圓九厘なり

因みに前年同期に對比する時は預り金に於て二萬三千五百五十八圓八十四錢五厘利益金に於て四千四百六十四圓八十一錢五厘現金に於て一千六百二十二圓七十一錢の孰れも增加を示せりと

◎物價騰貴趨勢

九月中京城重要商品の騰落狀況に付鮮銀の調査を聞くに朝鮮産品中騰貴十三品低落五品を示し又輸移入品は騰貴八品保合一品低落五品にして大勢騰貴の趨勢にありと之を各品別に示せば左の如し

▲生産品

▲騰貴十三品 玄米、大麥、小麥、小豆、牛皮、煙草、明太、鯛、木綿、紬、松柴材、薪、木炭

▲低落五品 精米、大豆、高粱、朝鮮紙、牛脂

▲輸移入品

▲騰貴八品 麥粉、精糖、醬油、支那紬、油、石炭、マッチ、洋紙

▲保合一品 清酒

▲低落五品 麥酒、綿絲、和金巾、打綿、金巾

◎書記講習會

總督府にては明年一月二十一日より約二週間に亙り內地人道郡島書記講習會を催すべく講習科目は地方行政、教育、土木、衛生、民籍、統計等七科目にして講習員は全道に亘り一道一人都島八人の割當にして而して行政に關する主任者又は將來主任たらしむる者の中より之を簡拔す可しと

◎東京商議員來鮮

東京商業會議所にては日支貿易の狀況を視察すべく同會議所議員を派遣することに決定し各議員は廿三日東京出發廿六日午前釜山上陸同十時三十分發列車にて京城に向ひ同日午後九時南大門驛着入京翌廿七日京城滯在二十八日出發滿洲を經て支那各地を視察すべしと派遣員は左の如し(釜山)

▲副會頭(ホ事工業)山科禮藏 ▲常議員(染料綿布)柴田淸之助 ▲同(貿易商)福岡信 ▲同(醫科器械)篠田和助 ▲同(今村銀行頭取)今村繁三 ▲同(金物商)田澤又右衛門 ▲同(會議所書記)赤松章

◎石塚總裁消息

石塚東拓總裁は二十六日朝奉天撫順を視察し同日大連に向ふ筈なり(奉天特電)

◎小田切正金重役

小田切正金銀行重役は二十四日正午四鄭線鐵道沿線の狀況視察の爲め四平街に赴き更に長春觀察の上二十八日奉天滯在二十九日出發朝鮮經由東上の筈なり(奉天特電)

中島司氏送別會

京城記者團京城若葉會及び經濟研究會發起となり前京城日報經濟部長中島司氏の送別會を二十七日午後六時より花月に於て開催の筈なるが出席希望者は二十六日迄に會場花月に申込む可く會費は金三圓五十錢當日持參の事なりと

◎牙山短信

▲稻作 忠南牙山郡に於ける稻作は殆ど黃熟して鎌入を待ちつゝ有るが收穫豫想高は昨年の實收高に比し約二割減平年作に比すれば一割增の見込なるが同郡及び附近一帶は旱魃の爲め多少挿秧遲れたるも植付後の根張良好にて地方に依りては昨年作に比し何等遜色無きも河畔一帶は時期に入りて風水害の影響を蒙りたる者多かりし爲め全收穫高に於て著しく減じたりと▲溫陽里の發展 溫陽里は牙山郡衙移轉以來に人家稠密し最近の人口は內地人二百朝鮮人二百を算し將來溫陽溫泉の發展上共に益々人口增加の見込みあるを以て最近于前趙重應氏と來溫地繁榮策の一助策として郡守及び憲兵隊の助力を得て三八市を開設する事となりたるが結果良好にて地方民多數蝟集し市場頗る殷盛を極め居れり

◎英潛艇獨艦襲擊

一英國潛航艇はリガ灣に於て獨逸驅逐艦に對し二個の水雷を發射せるも其結果判明せず後同艇は更に運送船を襲擊し一隻を爆沈せしめたり(倫敦電報)

◎獨宰相對議會策

獨逸宰相ミハエリス氏は宰相の他に副宰相をも罷免し其後任には議會に多數を占むる黨派中の有力者を採用し政府と議會との調和を圖らんとの意嚮を示しつゝあり、保守黨は宰相の此の態度を批難し其辭職を要求しつゝあり(ベルン電報)

◎獨戰時公債好績

獨逸第七回戰時公債は二十日迄に百二十四億二千二百萬馬克の應募高を得たりウオルフ通信は日く『此の好成績は米國大統領の公文に對する最も痛快なる回答なるべし』と(桑港電報)

◎石油勞働者罷業

バクー附近一帶の石油事業關係の勞働者及び商人は總同盟罷業を宣言せるも市中は無事なり(露都電報)

人事

▲島峯醫學博士(東大教授) 二十四日夜退京歸東

▲成瀨淸(鐵道家) 二十四日朝入京南尾旅館へ

▲高木俊之介氏(工學士) 同上

▲渡瀨維信氏 法學士 二十四日夜入京南尾旅館へ

百聞百種

小泉正保中將が亡くなられた▲中將と朝鮮……龍山……は却々緣故が深い▲中將は第八師團を率いて久しく龍山に駐屯して居たので知己の人々も多い▲其の邊幅を飾らず磊々落々たる腹中瞻斗の如き處は如何にも武事一片の人の樣にも見ゆるが▲却々以て文筆に達し其の書の如きは正に堂々たるものであつた▲而して一面から見ると短軀肥滿した好々爺の容貌を備へて居たが一度好物の盃を擧ると▲斗酒敢て辭せず談論風發の槪があつて青年者を後に瞠若たらしめたものだ▲何時であつたか記者は東九陵で將軍と兎狩をやつた事がある▲老將軍も元氣なもので深靴でサッサと驛路を驅け上り▲遂には兎と引つ組んで轉びながら「若い者は駄目だ」と一本頂戴した事もあつた▲さうかと思ふと平生は無口で能く親切に人の世話をしたものだ▲吉林督軍孟恩遠君は革職に立腹して一と旗上げやうとして居るらしい▲後任の新督軍田中玉將軍は行伍から身を起した傑物で段派中の才物である▲張奉天督軍に比しても勝るとも劣る人ではない▲吉林督軍としては適任である▲此の任命は奉天督軍に對する北京政府の一種の牽制策とも見られぬ事はないが▲鮑貴卿黑龍江督軍と張奉天督軍とを腹背に控へては充分の腕が振へるや否は疑問であるとの下馬評

送德富先生支那行　此經盛洲

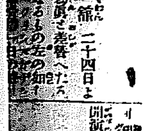
萬域蒼茫四百州。秋高肥馬任吟遊。湖風万廬山雨。筆端成花上紙頭。

生活難から投身

京城長沙洞朴仁瑞(七二)は妻鄭氏(六二)と二人暮しなるも生活難の爲め喧嘩を絕さず二十三日午後……

燒死

去る二十日午後九時二十分木浦府幸町客主金基友(六二)方の溫突の焚火が同室の南側なる物……



▲有樂舘 二十四日より全部新替へ……

▲御成座 大阪歌舞伎……

近代文藝叢書

會員募集

見よ、本邦平民文學の光彩陸離たるを。是思想の精華、感情の結晶、趣味の反映也。爰に慰安の靈泉あり、精神の藥餌あり、生活の滋味あり。家庭の乾燥以て醫すべく、日常の鬱悶以て忘るべく、高尙なる娛樂以て求むべし。敢て一般人士に、此貴重なる自國文藝の一大叢書を薦む。

編輯顧問 文學博士 上田萬年 文學博士 芳賀矢一 文學博士 關根正直

編輯主任 古谷知新

第壹期刊行 三大全集 全部十八册

菊判總クロース天金、紙數一册平均約六百頁、插繪一册平均約六十個、裝幀瑰麗無比

▲滑稽文學全集 全部十二册

觀察奇警、機智縱橫、諧謔頤を解き、諷刺骨に徹す。原本二百七十種八百卷、これ近世文壇の奇才が得意の妙篇也。

▲滑稽繪本全集 全部二册

作者の靈筆、畫家の妙技、兩々相映發して、奇趣狂態紙上に躍動す。是繪を主とし文を從とせる漫畫集の傑作也。

▲女流文學全集 全部四册

優柔婉約、精彩華麗、花の如く錦の如し。原本四十五種百二十卷、これ悉く近代女流の秀才が、雕心鏤骨の名著也。

規略 本叢書は會員組織にして會員にのみ頒つ●本年十二月より毎月一册宛刊行十八册にて完結●會費毎月二圓(送料共)●前金一時拂は三十六圓●入會金は二圓 孰れも別に申受く(最終の會費中に加算)

見本及規定 申込次第進呈

入會申込期日 十一月五日限

發行所 東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地 (電話本局三二二二番)(振替東京三八二二一番) 文藝書院 代表者 寳文館主 大葉久吉

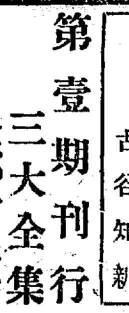
ヒーロー印防水靴クリームは今到る處で盛に御愛用を蒙る

◎本品は到る所の靴、雜貨、文具店にあり

電話 既設未設 電話賣買を親切丁寧迅速に取扱ふ 電話ブローカー安部 京城明治町二丁目 電話一四〇四番

防寒靴 製造販賣 毛皮なめし 並に地方の注文代金引替にて直に送る 京城府黃金町三丁目 大阪屋

京日案內



普通

▲御照會の節は必ず數字の番號を…… ▲出張所及代理店長を急募す希望者は履歷書及返信料を要す 廣島可部町日本經濟株式會社

▲藥劑師至急雇入れたし希望者來談あれ(姓名在社)

男女社員採用 月俸二十圓以上要履歷書 本人來談 京城吉野町一 電二七七 魁新報社支社

◎店員入用 市に確實なる保證人を要す 京城南大門驛前 友田運送店 電話二一八二

◎名刺印刷に經驗ある內地人 (電話二一九五番) 京氣堂名刺舖

店員手代入用 希望者本人來れ 京城府本町二丁目 大橋大三郎 十番地

番外

恩給 年金五年半分迄 低利無拼引即時立替 若草町百六 電話三千十一 西村商會

間自働車 京城 春川 貸切 京城水標橋通 電話二一三八番 春川自働車商會

恩給年金立替 五年半分迄低利 三年分迄無保險 京城若草町 金光教會裏手 電話二三九 國江商會

ほねつぎ うちみ くじき 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場

年金恩給低利即時立替 五年半迄保險不要 京城永樂町 商品陳列館前 江州屋本店

銃砲火藥 獵具 京城本町三丁目 電話二〇九二番 增戶銃砲店

賣家 日本建十坪 南米倉町本通市場前 官吏社員向 若草町新道近表通二十坪 水道附 電話一三二一番 太田方

鑛物各種分析 太平町二丁目二二六(電二八三) 遊廓油店側入る 松永分析所

勸業債券買入 日本內地と同值段にて申受けます 京城大平通二 電話一八三三番 勸業貯蓄社朝鮮支部

…有志多數の參拜あり午前十時盛會裡に散會せり▲新義州病院落成　新義州醫院[illegible]古山佐十郎氏經營に…

●鑛業界のパチルス(四)
▲惡ブローカーの内幕

泰然として動ぜず――廢山に鑛石を轉じて――手て餘脈に連れて行く――飛んだ悲喜劇――草鞋錢取りと云ふのは――裁判所利用

■如何に慾には　盲目の連中と云つても偶には用心深い先生が居て、では一應實地踏査をと出られる事もあるが、斯麼事はブローカー素より覺悟の前、泰然として些とも周章ず『よろしい何時でも御案内しませう』と澄し込んで其の所謂現場と稱する處へ連れて行く、以前は豫じめ鑛脈でもありさうに思はれる廢山へ二つ三つ鑛石を轉じておいて、いざ檢分となると其の鑛石を取上げて『これこの通り立派な奴がゴロ〳〵して居る』などゝ好い加減に其場を誤魔化したものだが、今ではもう斯麼陳腐な事は流行らない、大抵は參謀本部の五萬分の一の

■地圖に依り　出願濟みの鑛區を調べておいて、その餘派に連れて行くのだ、餘脈ならば多少の鑛質はあるし慾に晦んだ俄山師の目を誤魔化すに充分である、中には是程深い謀略もなく、應來こゞばかり相手を連れ出し其々田舎の旅舘に泊り込んで散々飲んだり食つたりした揚句、こつそり逃げ出すといふ酷い奴も居る、溜てけぼりを食つて後に殘されたものこそ好い面の皮で好い加減散財して未だ足らず、どこの詰りは己れを踏み潰した憎い敵の尻拭ひまでさせられるのだから情けない

■斯した悲喜劇　は昨今最も鑛業熱の盛んな咸南や咸北の山奥では毎日のやうに演出せられるさうな、草鞋錢取りと云ふのは主として鮮人間に行はれてゐる方法である、最近鍾路警察署に檢擧された惡ブローカーの親玉鄭寅琥の如きは此方法によつて數萬の富を築き上げたと言はれる位、是は何うするかと云ふと先づ成るべく世事に迂い地方の財産家を物色する、お誂へ向きの椋鳥があると早速渡りを付け重石なら重石の鑛山を幾許々々で買ふ買はう若し買主の方で

■破約した際　には違約金として幾干を提出しやうといふ契約を結んでおく、所がその鑛山といふのは見ると聞くとは大違ひ、全く見込みがないものだから買主の方では直ぐ破約して了ふ、熟んだ揉んだの末一方は結局裁判所に持出して違約金を取ると云ふ手段である、斯麼輩にかゝつては全く遣り切れない、恐るべき惡ブローカーよ、渠等は實に鑛業界のバチルスである。(終)

文展特選畫(道成寺の一部)松岡映丘筆

●總監部と祝賀

本月三十一日天長節當日憲兵隊司令部警務總監部にては左記順序に依り祝賀式を擧行すべし

▲參賀●　當日午前八時司令部總監部在勤判任官同待遇者一同の參賀を受く

▲祝賀●　參賀終つて總監部高等官及び判任官同待遇者各總代の祝賀を受く次に京畿道警務部長の祝賀を受く

▲御眞影拜賀式●　祝賀終つて御眞影拜賀式あり參列者は司令部、監部高等官判任官同待遇者京城憲兵隊同分隊同務部高等官判任官同待遇者憲兵補助員巡査補等なり▲右終つて高等官は高等食堂に判任官以下は下士食堂に參集祝盃を擧ぐ

智謀に富んだ豪傑肌の人
逝ける小泉中將

豫備陸軍中將小泉正保氏は既報の如く二十三日正午水戸市に於て逝去したるが中將が曾て朝鮮駐劄第八師團長として駐在せし當時師團副官たりし野津大尉は中將の性行に就いて語る

『小泉中將が朝鮮に駐在せられたのは大正元年から同三年迄であつたが評判の酒豪で盃を手にしたらどんな粗肴でも平氣に呑み醉つて玉山將に崩れんとすれば『オイ俺は寢るぞ』とゴロリ、横になるや否や

◇雷の如き鼾　をかいてぐつすり眠るのが癖であつた、それで夢などは滅多に見た事が無いとよく言つて居られたが、其癖、熟睡中でも室の外から閣下と小聲に呼ぶと『オウー』と言つて起き上つたものである、斯んな些細な事の中にも磊落不羈の

◇武人氣質が　閃めいて居て床しく感ぜられた、それから我々が常に驚いて居たのは中將が北鮮地方を檢閲中の如き零下三四十度の嚴寒中に六十の老軀を提げて平氣で巡閲し南京虫や蚤が群で掃く程居ても眞逆南京虫に

◇喰殺されも　しまいと言つては不潔極まる鮮人家屋に宿を取り食物の如きは粟でも黍でも一切お構ひなしで食べるので隨行の我々が舌を卷いた事は屢々であつた曾て日露戰爭の際乃木軍の參謀課長として各地に轉戰し沙河の滯陣戰には兵略上重要地として目された拉木屯を占領して

◇實戰家たる　の技倆を認められたが其際中將の部下の一小隊が群を拔いて挺進せんとした爲め師團參謀は危んで退却を命ずると、一隊の兵は『背進すべしとは曾て教へられず』と叫んで頑として命令を肯ぜなかつたとの事である此一面を見ても如何に中將が

◇智謀膽略共　に秀で部下を訓練する事の嚴なりしかを窺ふに足りるであらう、併も中將の豪快なる反面には非常に優雅な處があつて和歌や書は堂に入つて居たとの評もあるが余の秘藏して居る歌の中には

乘る駒の蹄の音もさえわたる氷ざさせるありなれの川

と言ふ作があるが今訃報に接するとは

◇夢の様な心地　がする』と倚任氏の談に依れば中將は大酒の結果中風症に罹り居たるを以て死因は多分此れならんか

◆師團長として在鮮當時の小泉將軍

●成歡行き(三)

獲物の筆頭は遠藤秘書官の雉子二羽

■一行は成歡驛午後七時發の汽車に投じて歸途に就いた政務總監始め宇佐美長官、古海將軍、鈴木長官、佐藤博士等の諸氏は一室に總督府、軍、鮮銀等の一行は次の一室に分乘した此の一室は少壯連の集まりとて氣燄中々當るべからず、我社の無佛社長なぞは平生作つた罪業多き爲め包圍攻撃を受けて散々敗闘を入れて仕舞つた『社長さん腹ふくらして種取らず自分の事を他人にして書く』『或』『蒙古馬中に一疋無佛あり』『無佛社長彌次馬の種を取り』など左右前後より狂歌や句など盛んに浴びせ付けられて應酬し切れぬ所に鈴木長官より權藤氏に宛て『馬車の客に喰ひ付く馬の主は誰』『玉馬頭賓客の肩を失敬し』と云ふ句が遣つて來た

■是で風の方位は遽に轉換して權藤氏に向つて此句に對する事實の説明が始つた被告も中々強情を張つて白狀に及ばなんだが、情理を盡した大岡的裁判に堪へ兼ね一部始終を申立てたそれは先達東京なる王世子附の高義敬子が京城に使命を帶びて來た頃の事である一日權藤氏の案内で李王職の華山牧場に參觀に出かけた馬車で牧場を廻つて居ると權藤氏は此所ぞ乃公の手並を示す所と種馬の逸物に跨り威風堂々と遣つて來たすると忽ち其の馬が高子の馬車を目覓けて飛びかゝりあはや高子の肩に喰付かんとした高子も權藤氏も周章狼狽を極めた許りしが幸に御兩人共御無事で濟んで御目出度かつた權藤氏は自分が平生の手練甘く馬を引止めたので無事だつたと云ひ或は馬車の幌が支へ呉れたので助かつたとも云ひ其邊の事實は判明せなんだが其所は權藤氏の面目を重んじ無罪を申渡された一同は成程權藤氏と云ひ鈴木長官と云ひ先刻牧場で試乘を強ひられて謙遜したのは此の前車の覆轍に鑑みてであつたかと合點が往つた

■其から本日獵の獲物の審査が始つた遠藤秘書官の雉き廠に幾十となく獲物を下げる[illegible]の紐を始つた[illegible]ながら一疋の獲物が下つて居ない古海將軍然り國友警視然りであり嚴密な審査の結果遠藤秘書官が筆頭で雉二羽古海將軍が當歳の兒雉一羽國友警視は中々漏さなんだが到頭新聞包を披て示すのを見るとか大な雀が一羽和田監理課長は前日掛け大に一行に獲物の多きを誇る心算であつたが獵運拙く漸く牧場の禁獵場で雉五六羽を打止め一行が晝飯の場に增軍に負せて來て得意であつたが復た一行に先つて何處かに往つて仕舞つたので車中の審査を行ひ得なんだ此の行の掉尾の振つた失敗談とも云ふべきは牧場で拘獲した結果洋袴下の紐を緩めるはづみに越中の先を脱し漸次其が下に降つて洋袴の下より失敬して居るのに氣付かず威勢能くプラットホームを濶歩し電車に乘る時人に注意されて始めて分つた拙男が一人在つた事である(鮎釜生)

●辱めて殺害

奈良縣郡山町今井生れ久保さだは活動寫眞見物に行きしまゝ何者にか誘拐され行方不明となり搜索中なりしが二十三日午後大阪尻無川尻にて辱められ上殺害されたるを發見し目下犯人取調中(大阪特電)

●本願寺執行長等を告發

本派本願寺内局に反對し之に疑獄事件の導火たる告發を爲したる研究會の安武、井上、吉川、樋田、牧田等は大阪の辯護士森下龜太郎氏を代理とし利井執行長、足利、松原其他各執行に對し横領罪として告發せり右罪狀は別院に於て金數萬圓を融通したるを犯罪となすといふにあり(大阪特電)

▲犯人逮捕さる　前報奈良縣郡山町今井生れの少女久保さだを大阪尻無川尻に於て強姦致死せしめたる犯人は大阪西區本田ペンキ職青木仙太郎なること判明し二十四日朝捕縛されたり(大阪特電)

●八幡製鐵事件

八幡製鐵所事件に關し新たに飯塚驛長、炭坑事務員等取調べあり麻生太吉氏の店員等拘引せらる麻氏危しとの説あり(門司特電)

●楊守敬に書道を學んだ
隱れた書家

此頃來鮮してをる水野錬梅翁が壬午年前に支那に遊び楊守敬に就て書道を學んだといふことでふと思ひ出したが▲永樂町に島村節蔵といふ隱れたる書家が居る此人は日下部鳴鶴翁の高足で[illegible]りも古學の[illegible]古法帖のとにも精通して居る別に名を誇らうともせずこつ〳〵と[illegible]先に眠つて居る▲この節も以前揚に就てをる筈だそれはたしか明治十[illegible]楊が何とかいふ支那公使に隨つて東京に來た時で楊は日本の古書を取調る目的でやつて來たと思ふ▲鳴鶴翁や故巖谷一六翁それに故松田雪柯翁は楊が支那一流の書家で其金石學の泰斗であることは豫て噂さに聞いて居つたから早速楊を訪ねて行つた▲楊が心血を注いで收集した稀本や古法帖が一萬何千種もあつたさうだが日本に來るに付いて留守中之れを管理して呉れる適當な人がなかつたといふので全部日本に持つて來た▲三人が毎日〳〵支那公使館に至り書道に就いていろ〳〵と[illegible]を交換し又此一萬以上の稀本や古法帖と首つぴきでとうとう全部目を通したといふことだ其熱心と精力の盛んなのには敬服せざるを得ぬ▲日本に六朝の書風が行はれるやうになり又こわい毛の短鋒かひよろ長い羊毛の長鋒を用ゆるやうになつたのは之れからで日本の書道史に新紀元を劃して居る▲當時節蔵は鳴鶴翁に伴はれ公使館に幾度も行つたから楊とも親しくなり書道に就ても教を受け又いろ〳〵書いたものも貰ふたといふことだが永い年月の間に友人や知己に與れてやつたので今は書で持つて居ない扇面と楊が加朱した文章しか持つて居ないといふことだ▲楊は惜しいことには三四年前物故したが晩年の書は無論老熟したもので美事なものであるが大巧は拙なりで我々素人には晩年の作よりも節蔵の持つて居る扇面の方が筆力遒勁で中々能く出來てをる

●水害義捐演奏會

▼▼▼新町妓生組合の篤志　新町妓生組合の妓生一同は東京其他各府縣下の暴風雨被害者に深く同情し二十三日より向ふ一週間團成社に於て義捐演奏會を催し其所得を被害各府縣に寄贈する筈にて二十三日の初日の如きは破るゝが如き盛況を呈せりと

●鰊の大漁

數日來淸津灣に於て鰊の漁獲を見つゝありしが二十四日三十萬尾の大漁ありたり(淸津特電)

うわさのうわさ

▲生れた河馬の子　夕刊二面に載せた『河馬』は子を産んだ河馬で無くして生れた河馬の子であります

▲獨逸で八個年間齒科學を專攻した島峰博士は單に齒科の泰斗たる許りで無く獨逸の學制にも精通し▲我國の教育制度や教育に關する意見は豊富で然も適切で此の方面の學者として立派な見識を有てゐるが▲四十四歳の今日まで獨身で妻帯を勸める人があつても研究中の身であるから妻の必用もあるまいと言つて聽かない▲時には嫁に來る樣な氣まぐれ者もあるまいよと言つて呵々大笑するが當の博士は眉目秀麗の好紳士であるとは何處までも學者氣質を發揮してゐる▲音羽家の我當の男さいへば京城の藝者中では上手として通つてゐたものだが今度廢業して東京に歸る事になり二十五日の朝京城を出發するさうだ▲それに就いて同人が嘗て大食會員だつたといふので同じく會員だつた藝者連中が音頭取りになり[illegible]といふやうな名義で久しく中絶してゐた同會を復活させ政男が立つ日を以てその第一回を開く事になつた

…されたり(大阪特電)

●窃盜中尉有罪　鳥取歩兵第四十聯隊の窃盜中尉高[illegible]

●客引を撲る　毎年春秋好季には旅客の往來盛んにて南大門[illegible]江原道居住の宮本某を迎へ行かんとした際突然横合より現はれたる鹿兒島縣出水郡中出水村生れ蓬[illegible]

●藝妓の投身　慶北盈德郡江口に於て去る十七日の夜同急流に身を投じ一人心中を企てたる女[illegible]沈みつゝ流れ居たる折柄附近航行中なりし發動機船新生丸が發見して直ちに引揚げたり(大邱)

[illegible]苦悶中を巡廻中の鍾路署の警官が發見して直ちに引揚げ手當を加へしかば生命に別條なしと

[illegible]り當時金某友は發火を知り直に屋外に飛出さんと屋内に入るや煙の爲めに捲込まれ出途を失し遂に燒[illegible]

自働車講習第七回生募集

安全第一　名譽會長 櫛引弓人　顧問 飛行家 アートスミス　會長 (紐育自働車學校、東京青山南町七丁目二番地)
(三ケ月卒業)就職し成績優良なり好期を逸せざるは成功の始めなり
自働車講習會本部

回壽座　新派悲劇[illegible]新派劇愛澤正義一座にて二十五日より開演の筈

京城電氣會社製　特約販賣
コールタール
金物商 島田忠作商店
龍山漢江通り八(電話四九番)

少女畫報
十一月號
少女小説
◎天の菊……與謝野晶子
◎美しい玉……江見水蔭
◎松の笙み……三津木貞子
◎(四人)姉妹……美津子
◎撫子姫……斷水樓
▲初霜(原色版少女畫)池田輝方筆
▲虹の村(オフセット版)君島柳三筆
▲熊のお母さん ▲遠足と見學 ▲英國女學生の體操 ▲女學生の働き ▲可愛い農業家 ▲女學生の今昔 ▲働く少女働かぬ少女 ▲大根洗ひ ▲大漁踊り(何れも光澤寫眞)
書物は身に讀め　高島顧問
寫眞小説　母を懷ひて　情味津々
◎香を出す動物　竹島教授
菊の日和(少女家事)……手塚教授
猫と鼠(少女英文)……岡田教授
觀菊の料理(少女料理)……指原講師
實業の營手となつた話……和田古江

日本幼年
(十一月號 定價十三錢 郵税一錢 半年八十一錢 一年一圓五十六錢)
回本誌は子供に良感化を與ふ回本誌は玩具と教育を兼ねた回智情意を圓滿に發達せしむ回子供にもたやすく讀める回始から終まで全部彩色繪本回毎號面白い附錄がつく
三の子の魂 百まで
婦人畫報 婦人界 少女畫報 日本幼年
發行所 東京京橋瀧山町 東京社 振替四千九百番 全國書店賣捌

コンナ時に買はないと損です
メリヤス大賣出し
見切品
昨年殘品全部
赤札付大安賣
新品は下落値段
二十五日より三十日迄
京城本町一丁目
鈴木メリヤス店
電話一八七二番

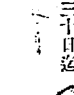
寫眞製版
京城日報社寫眞製版部

冬物賣出し
軍隊及鐵道局拂下
余褌外套毛布防寒シャツズボン長靴下大入用古服類澤山あり
既製服及中古洋服
▲詰襟折襟洋服オーバーコート長トンビ大人套小供マント類
▲特に上等御召の中古御婦人物澤山取揃へてあります
龍山元町二丁目電話百〇五番
衣服商 金子奥市商店　振替京城三八三

蝶の菓子　虫下だしの妙薬
一夜膏
熱香丸　風ひきマラリヤねつさまし
到る處に支店出張所及有名藥店ニテ販賣ス
日本一藥舖代理店　釜山本町五丁目

五萬貫限安價にて御注文に應ず
在庫豐富
木炭
根炭 白炭 分拆川
山西商會

最新刊
獨乙の肉彈
國民經濟
家庭日用料理講義
毒舌
人生の迷路
露西亞遊記



大阪屋號書店

櫻御殿

大阪　霞の家主人

第五十回　三左衛門の血(七)

助左衛門は悠然と坐を構へる、奥座敷で重役共がそれに對する評議を重ねて居るのが見透され、時には兵部少輔の高聲が洩て來る暫くすると、上總が心配らしい面をして出て來た

『まづ聞かせられ、只今評議を凝らしたところ、主人兵部少輔申すには、靭島殿御内に對し、存外の致し方、今さら何と致す道もござない、最愛の御家人を犬死させ、左衛門太夫殿御立腹さこそとは推量するが、圖書殿よも御存じあるまい、由て輩下の武士三百人を首にして參らする間、それにて御勘辨下さるやうお執成賴み存ずる』

上總が事を分けての返答はこれであつた、三左衛門一滴の血を、人一人の首に換へても、尚餘りある扱ひ、而が近習の平士一人に對して、三百人の首を切らうといふのでも、德川方の諸大名が、いかに正則を憚つて居たかが知れる、助左衛門も大方の事情は聞き知るに、三左衛門の通行を差し止めたさへあるに、竹杖にて突き出し、脾腹を打ち据ゑ、無禮の限りを盡したのは、心無い番卒のした事で、圖書の預り知つたことで無いのも想像する、それに對して圖書の首を所望するは、道なるまじく思ふのじ、上總の口上に納得を與へようかとは思つたが、一應正則の意見を聞いた上で無くては後日どんな難儀に及ぶかも知れぬと氣付いたので

『御返答の意味は分り申した、主人左衛門太夫へ申し傳へ、改め御挨拶を申すでござらう』と云ひ置いて辭し歸つた

正則は默然と待つて居た、助左衛門はその前に手を支いて、井伊家の返答を言上した、すると正則はきらりと光る目を助左衛門の上に投げて

『三左衛門の相手は圖書ぢや、その事三左衛門より申し置いた、敗ならぬ足輕小人の首を三百得て何に致さう、當方の所望は一個の首ぢや、是が非であらうと、圖書の首を見ねばならぬ、此の段江戸内府公へ仰せ上げ下されへ、もし内府公御同心ならば、内府公への忠節もこれまでぢや、追付け草津の御本陣へ參つて、直々お斷はり申すであらう』と決然云ひ切る詞の中に意地が見ねる、己の勢力に由つて、無理を通さうとの我意も籠る、助左衛門は吃驚して

『すると井伊殿御扱ひを御不足に思召すのでござりまするか』と問ひ返した

『三左衛門の相手は圖書ぢや、三左衛門が耐う云ふた、足輕小人の者は要らぬ、圖書の首級を三左衛門の位牌に手向けずば、我等死人を欺くに當る、只今の口上きつと兵部少輔に傳へ參れ』

助左衛門は畏つて立ち出づる、さうして井伊家の陣所へ行つて、嚴しく正則の口上を傳達した、兵部少輔の驚きは一通りでなかつた、いかに相手が横紙破りの正則であらうと、罪もない圖書に切腹させることは爲きぬ、さりとて正則の立腹を抑へるに道は無い、助左衛門へは追て御返答申し上げる旨を答へて返し置き、歴々衆の意見を聞くべく、まづ淺野紀伊守幸長の陣所へ行つた

三左衛門の血は、天下の大名を湧き起たせた

■不思議の新聞　紙の懸賞

▲白耳義の獨逸占領地内に於て『自由の白耳義』と題して自動車内で發行し極力獨逸に楯を突き獨逸が如何に苦心しても發見することの出來ない新聞がある

▲此新聞は獨逸人の罪惡に關し小學兒童の讀むに適當な最も秀逸の短篇を投稿したものに一千フランの懸賞を約して居る

▲其れは或匿名の人の特志に出たので其目的は白耳義國民が上下擧つて獨逸を怨むに至つた眞因が那邊にあるかを戰後白國少年の腦裏に徹底させることにある

▲右投稿者として最も好適な小學教師は愼重に材料を蒐めて之を獨逸官憲に認められざる樣心掛くると共に秘密に執筆して來る可き自由の日の爲に準備すべしとの注意がある

▲勿論所在不明の新聞であるから投稿したくても投稿先が分らぬので原稿は戰爭終局後其發行所へ送るとして其發行所は自動車の一室でないことは言ふ迄も無いさうだ

日報俳壇

蜻蛉(下)

藪の風宿木に落ちて蜻蛉哉　青郊
穗蓼動かす夕の空を飛ぶ蜻蛉　同
小鳥群れ飛ぶ黄く朝空を蜻蛉哉　同
山崩れの岩轉がれる蜻蛉哉　未刀
蜻蛉や學校の道の炎の宵　同
水に折れし葦を動かぬ蜻蛉哉　同
校舍建たぬ敷地や飛ぶ蜻蛉　痩骶
牛車續く海沿ひ道や飛ぶ蜻蛉　同
屋根草に風少し吹く蜻蛉哉　汀幽
鯖干す朝日に驕る蜻蛉哉　同
手遊び行く口笛の兒に飛ぶ蜻蛉　郊宵
蒲の穗の亂るゝ風に蜻蛉哉　同
蜻蛉飛ぶ夕空が淋しい留守居　井蛙
木々の葉裏に蜻蛉が憩へる雨哉　同
蜻蛉や張物乾はく裏の畑　忍堂
舟搖れて水棹離るゝ蜻蛉哉　同
門に出て兒を呼ぶ母や飛ぶ蜻蛉　愛風
投網干して漁村の家並飛ぶ蜻蛉　同
大晴れし空低く飛ぶ蜻蛉哉　鵝翔
芦の葉の蜻蛉に流る夕日哉　同
潮かすむ井戸の水嵩や飛ぶ蜻蛉　馬匠
稲に泥る稗抜くが嫌な蜻蛉哉　同
退き潮に傾く船や飛ぶ蜻蛉　楓亭
邑に近き善攻の碑や飛ぶ蜻蛉　擁邪

大阪株式市況

內科 胃腸病
診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院
電話二七二九

朝鮮人參精製
精力を盛し腦力を強る靈藥
ホシ人參 製劑

種類
ホシ人參丸　廿錢　五十錢　一圓　二圓
ホシ人參錠　五十錢　一圓　三圓　五圓
ホシ人參末　五十錢　一圓　三圓　五圓
ホシ人參エキス　五十錢　一圓　三圓　五圓
ホシ人參葡萄酒　一圓

藥用人參は古來より不老長壽の靈藥として盛に賞用せらる。殊に支那に於いて人參の需要盛なるは專ら精力增補の目的に使用せらるゝが爲なり本邦に於いても近來人參の愛用益盛んなり、蓋し眞正純良なるものは極めて稀なりホシ人參製劑は人參研究に名ある朝鮮總督府顧問三宅博士が朝鮮人參の本場なる開城產の逸品中より優良なるものを選擇し是れを化學的に精製せるもの數ある人參製劑中の最優品なり。

主効
神經衰弱、ヒステリー、貧血、肺病、老衰、リウマチス、子宮血の道、腦病、神經痛、陰萎、營養不良、腎臟炎等に効あり
▼各地藥店及特約店にあり

京橋南傳馬町三丁目
星製藥株式會社
振替東京二〇五二二
電話京橋一七八五

═タカヂアスターゼ═

高峰博士創製の本劑は從來北米及英國にて製造の品を販賣し來りたるも今回本邦に其工場を設け純國產品となれり
類似模造品を本劑と同一强度又は同一効力あると稱し販賣するものあり注意を乞ふ
本劑は粉末及錠劑の二種あり
●本會社發賣のタカヂアスターゼは總ての胃腸患者に賞用せらる殊に本邦人に最も多き消化不良症に起因する諸症に用ひて卓効あり從つて能く其榮養を增進す
東京室町　三共株式會社

各種萬年筆即時修繕
京城旭町二丁目 電話三〇七七
東京パイン萬年筆出張所

慢性胃腸病逆症も藥で治らぬ
とて悲歎せる方は現今東都に於ける鍼灸マッサージ術大家東京鍼灸學會長金原大先生其他各名士多年實驗賞讃の新案特許スプリング式按腹器を試用あれ本器は實に巧妙なる數個のゴム製指頭の自働作用により腹壁を按壓する狀恰も婀娜なる指頭もて強く弱く自由自在に按腹するにも勝り一種云ふべからざる快感の裡に十二分にして胃滯一掃十二分にして便秘快通十二分にして頭腦明瞭を覺ね眞に胃腸病者最新神想的家庭療具として實行如何 圖解說明書申込次第無代進呈す
東京市淺草區茅町二の二保留場前 保田三春堂器械部

りん病 はい毒
淋病 梅毒 特效藥 一週分
京城永樂町二丁目交番北
東京ドラッグ商會

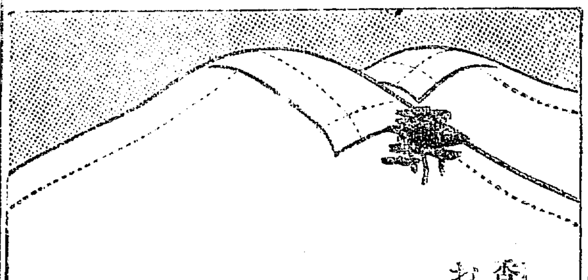
新荷著 懷中時計

イングレッソー商會
本店京城本町二丁目 電話九二二

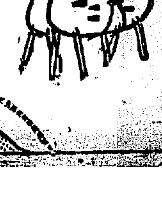
健胃消化錠
ゴルフ
二十錠四十錢
東京吉町 株式會社

りん病
家傳秘法の妙藥あり同病で困る方は只一劑を試みよ
名古屋市 武藤

光輝ある……優勝旗は
森永ミルクキャラメル
愛用者の手に！



香水をお需めなら
金鶴香水
になさいませ
僅か一滴で男子らしい、いやみのない優雅な薫りを永く〳〵お樂しみになる事が出來ます

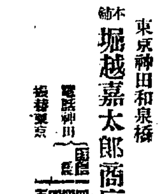


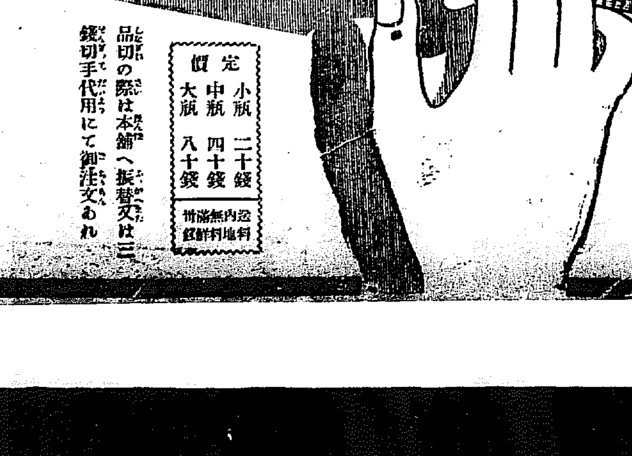
花王石鹸香水部 製造元 東京 長瀨商會
大阪 大崎組商會

家庭化粧料
紳士方のヒゲそり後の剃刀マケを防ぐ
ホーカー液

朝　朝の洗面後に一二滴お塗けになれば精神爽快を覺ね一日中肌心地よく色を白く血色を增し風采最も颯爽たらしむ。

夕　樂しき御晩餐の前の洗面或ひはお湯上り後にお用ひになればスベ〳〵として、肌アレを防ぎ絶えず芳香を漂はす。





定價　小瓶二十錢　中瓶四十錢　大瓶八十錢
送料地方一割増
品切の際は本舖へ振替又は三錢切手代用にて御注文あれ

本舖 東京神田和泉橋
堀越嘉太郎商店
電話神田 振替東京